

被保険者(40-74歳)の健康状態と生活習慣病に関する調査分析

平成 29 年 1 月

IT 推進部データ分析推進グループ

本調査は、平成 26 年度の特定期健診を受診した被保険者(40-74 歳)を対象に、問診回答による食習慣や「肥満」及び健診検査値のリスク判定基準に基づく該当者の割合、あるいは、これら健診検査値リスクに関連する生活習慣病「高血圧症」・「脂質異常症」・「糖尿病」の 3 疾患の罹患状況から被保険者の健康状態について考察したものである。

調査内容は二部構成となっている。第一部では、平成 26 年度の特定期健診を受診した被保険者:270 万 4,001 人(男性:202 万 3,161 人、女性:68 万 840 人)を対象に、問診回答による食習慣や「肥満」の状況のほか、「血圧」、「脂質」、「血糖」の健診検査値が保健指導基準値以上(受診勧奨基準値を含む)の該当者の割合並びにこれら業態別の傾向について調査した。

また、第二部では、平成 26 年度の特定期健診を受診した被保険者で、かつ翌 27 年度のレセプトデータと紐付きが可能な 156 万 8,373 人(男性:124 万 3,351 人、女性:32 万 5,022 人)を対象に、「高血圧症」・「脂質異常症」・「糖尿病」の 3 疾患のレセプト発生状況や健診検査値のリスク別の有病者数上位 10 疾患について調査した。

【調査結果のポイント】

1. 特定期健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、「肥満」に該当する者の割合は 40.8%となっており、業態別にみると、建設業(50.0%)、運輸業(46.5%)、その他のサービス業(45.7%)で比較的高い割合となっている(p.12~p.14)。
2. 「血圧」・「脂質」・「血糖」の検査値において、いずれのリスクも保有していない者の割合は全体の 39.0%となっており、約 6 割が何らかのリスクを保有している(p.15)。
3. 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)該当者の割合は 15.0%となっており、業態別にみると、建設業(20.2%)、運輸業(同)、印刷・同関連業(17.6%)で比較的高い割合となっている(p.25~p.27)。
4. 特定期健診を受診した被保険者 156 万 8,373 人のうち、入院外における「高血圧症」・「脂質異常症」・「糖尿病」の 3 疾患の有病者割合は全体の 25.5%となっており、疾患別にみると、「高血圧症」:13.7%、「脂質異常症」:7.4%、「糖尿病」:7.7%となっている(p.38-p.45)。
5. 健診検査値のリスク別(血圧、脂質、血糖)に有病者数上位 10 疾患をみると、いずれのリスクでも「本態性(原発性 一次性)高血圧(症)」が最も多いほか、生活習慣病関連疾患が上位を占めている(p.46~p.47)。

各健診検査値項目の判定基準は以下のとおり。

「肥満」・「非肥満」の判定基準値

肥満	内臓脂肪面積 100cm ² または内臓脂肪面積 < 100cm ² で BMI 25kg/m ² 内臓脂肪面積の検査値がないとき 腹囲【男性】 85cm、【女性】 90cm 腹囲【男性】 < 85cm、【女性】 < 90cm で BMI 25kg/m ²
非肥満	上記 ~ のいずれにも該当しない場合

健診検査項目の判定基準：保健指導基準値以上(リスクあり)

	検査項目	保健指導基準値以上(リスクあり)
血圧	収縮期	130mmHg 以上
	拡張期	85mmHg 以上
脂質	中性脂肪	150mg/dL 以上
	HDL コレステロール	40mg/dL 未満
血糖	空腹時血糖	100mg/dL 以上
	HbA1c	5.6%以上

厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム[改訂版]」・「第2編：健診」p.58 を基に作成。

(なお、「脂質」のリスク判定については、保健指導対象者の選定と階層化において対象となる検査項目に「LDL コレステロール」判定値を含まないため、本稿でもこれを除外している。)

内臓脂肪症候群該当者・予備群の判定基準

	腹囲	追加リスク
		血圧、脂質、血糖
内臓脂肪症候群該当者	85cm(男性)	2つ以上該当
内臓脂肪症候群予備群	90cm(女性)	1つ該当

追加リスク

血圧	収縮期血圧 130mmHg 以上 かつ、または 拡張期血圧 85mmHg 以上
脂質	中性脂肪 150mg/dl 以上 かつ、または HDL コレステロール 40mg/dl 未満
血糖	空腹時血糖 110mg/dl 以上

厚生労働省「平成 26 年度特定健診・特定保健指導実施状況」p.10 を基に作成。

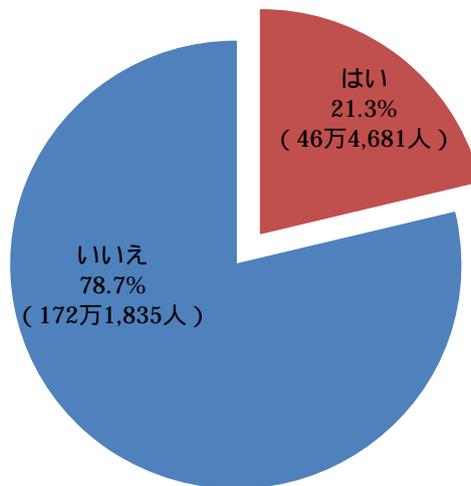
1. 問診回答による食習慣

「朝食を抜くことが週に3回以上ある」と回答とした者の割合

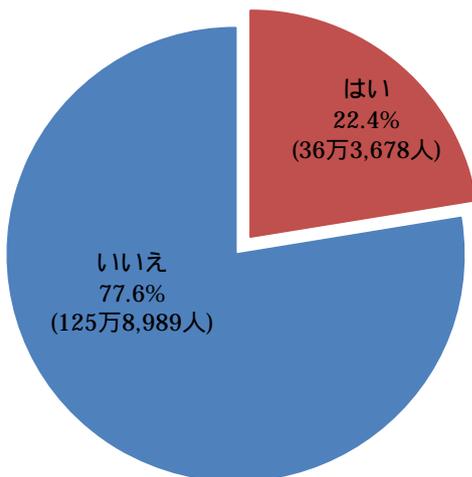
特定健診を受診した被保険者270万4,001人のうち、問診回答において「朝食を抜くことが週に3回以上ある」と回答した者¹の割合は21.3%となっている。

男女別に「はい」と回答した者の割合をみると、男性が22.4%、女性が17.9%となっており、男性の方がやや高くなっている。

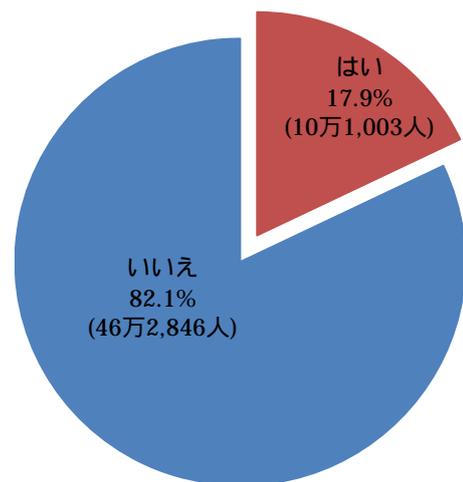
「朝食を抜くことが週に3回以上ある」



【男性】

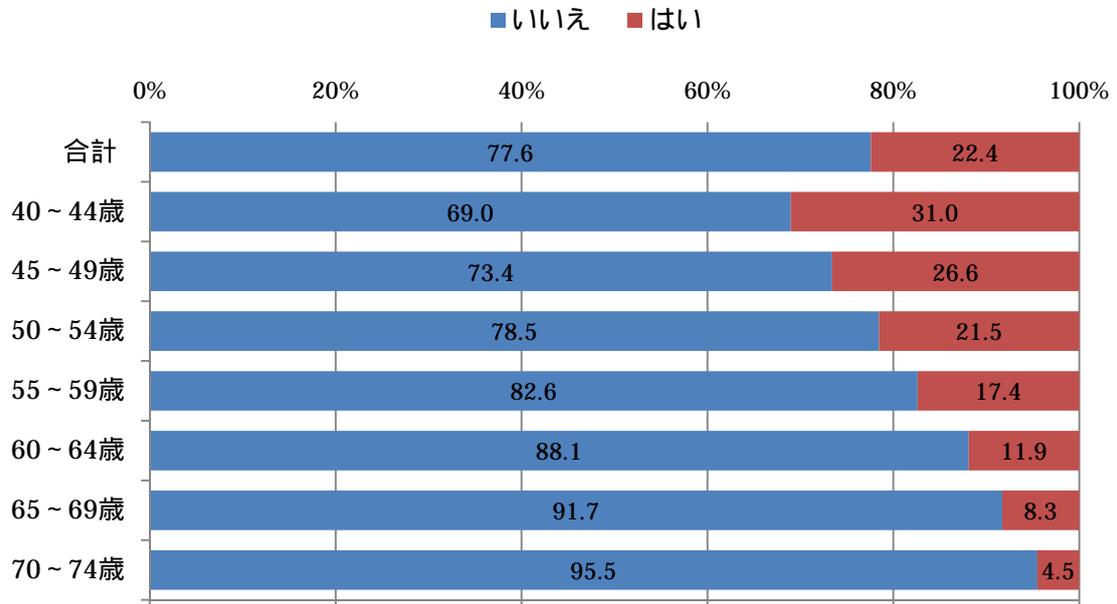


【女性】

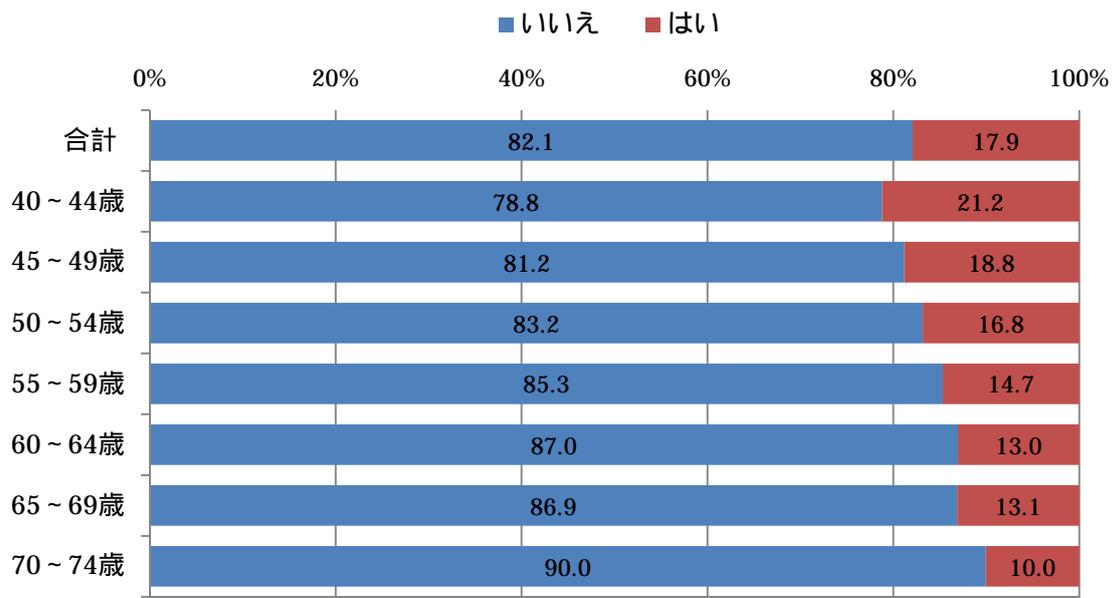


¹ 当該質問項目の回答については必須項目ではないため、特定健診受診者270万4,001人のうち、回答者は合計218万6,516人（男性：162万2,667人、女性：56万3,849人）となっている。
なお端数処理の関係上、割合の合計が必ずしも100%にならない場合がある（以下、同じ）。

【男性】



【女性】

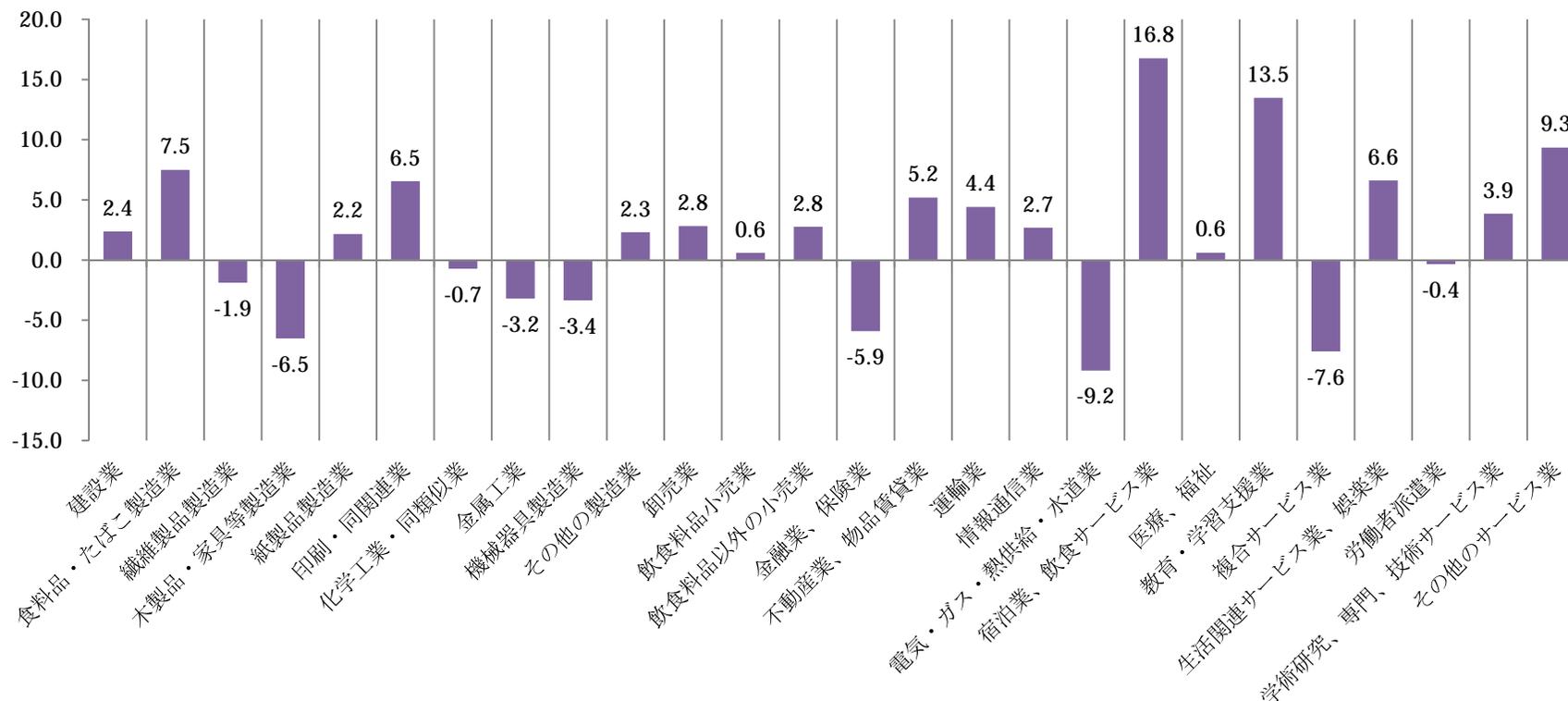


業態別にみた「朝食を抜くことが週に3回以上ある」と回答した者の割合：全体値 21.3%との差

業態別に「朝食を抜くことが週に3回以上ある」と回答した者の割合をみると、全体値 21.3%に対して、 宿泊業、飲食サービス業 (+16.8 ポイント) 教育・学習支援業 (+13.5 ポイント) その他のサービス業 (+9.3 ポイント) の順に高い。逆に低いのは、 電気・ガス・熱供給・水道業 (-9.2 ポイント) 複合サービス業 (-7.6 ポイント) 木製品・家具等製造業 (-6.5 ポイント) となっている。

「朝食を抜くことが週に3回以上ある」と回答した者の割合（全体値との差）

全体値：21.3%

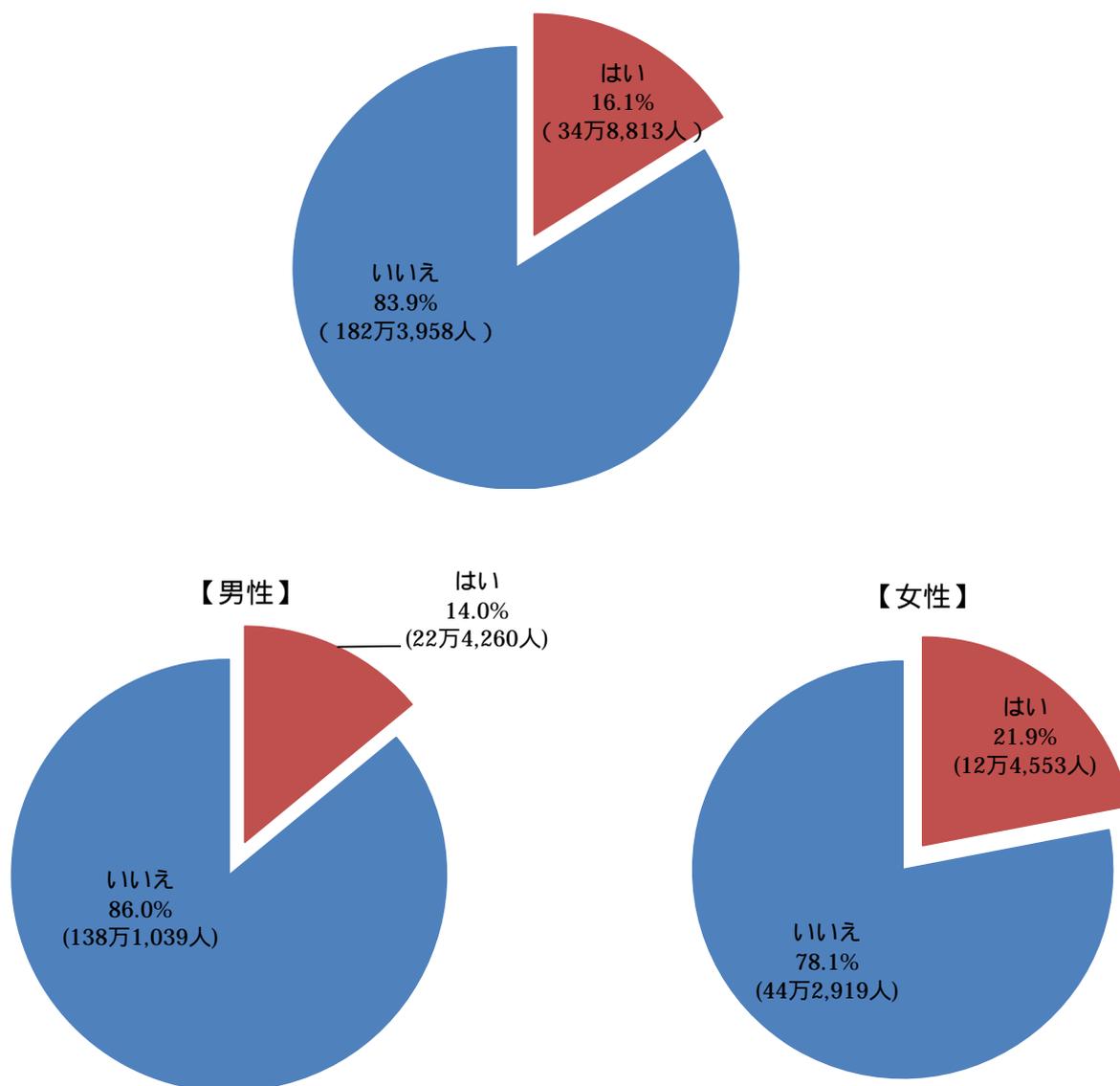


「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、問診回答において「夕食後に間食をとることが週に 3 回以上ある」と回答した者²の割合は 16.1%となっている。

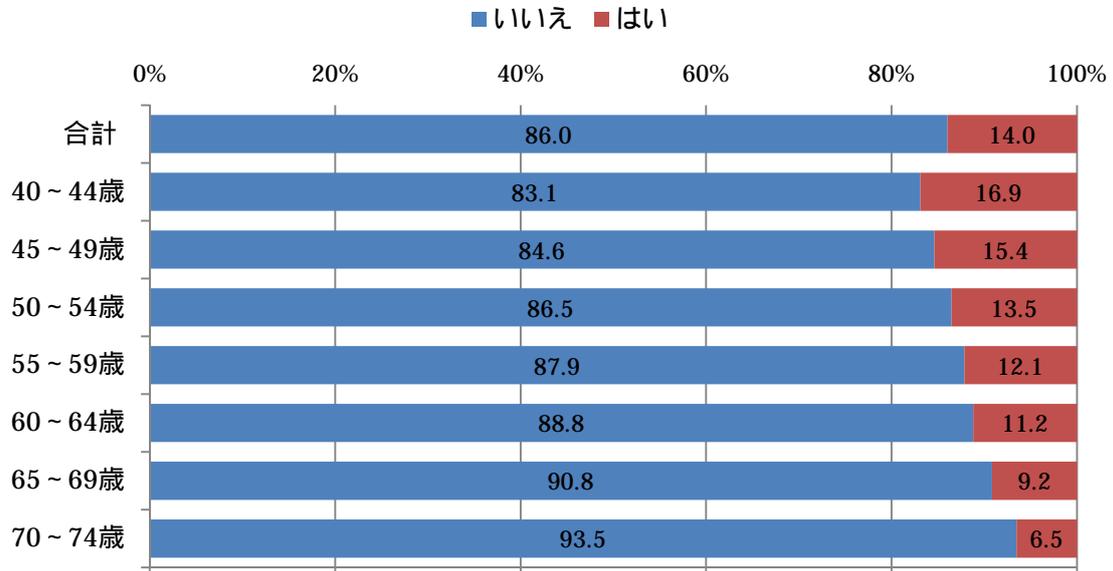
男女別に「はい」と回答した者の割合をみると、男性が 14.0%、女性が 21.9%であり、女性の方がやや高い割合を示している。

「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある」

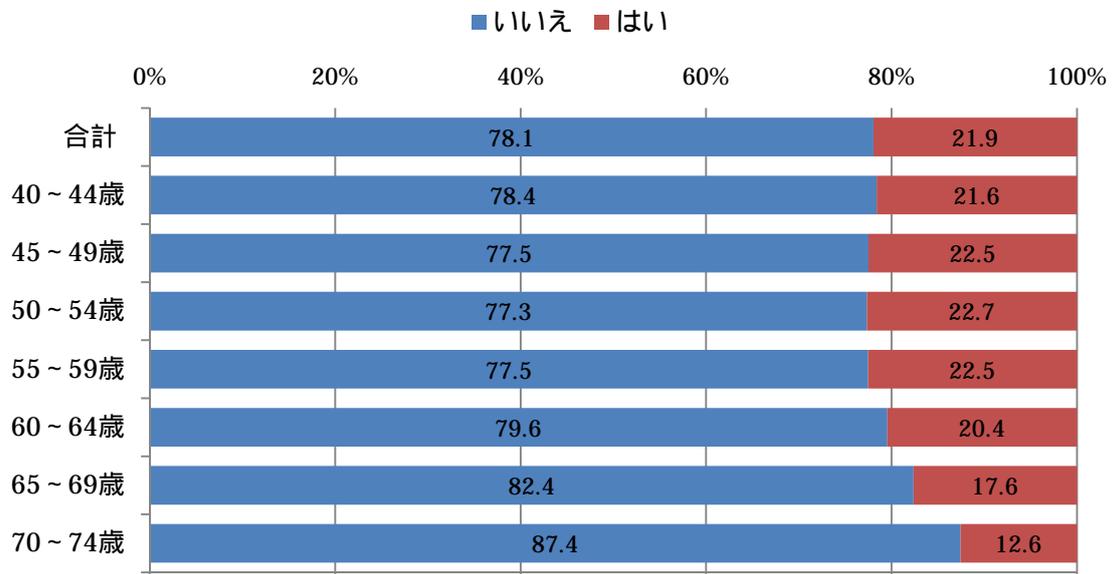


²当該質問項目の回答については必須項目ではないため、特定健診受診者 270 万 4,001 人のうち、回答者は合計 217 万 2,771 人 (男性 : 160 万 5,299 人、女性 : 56 万 7,472 人) となっている。

【男性】



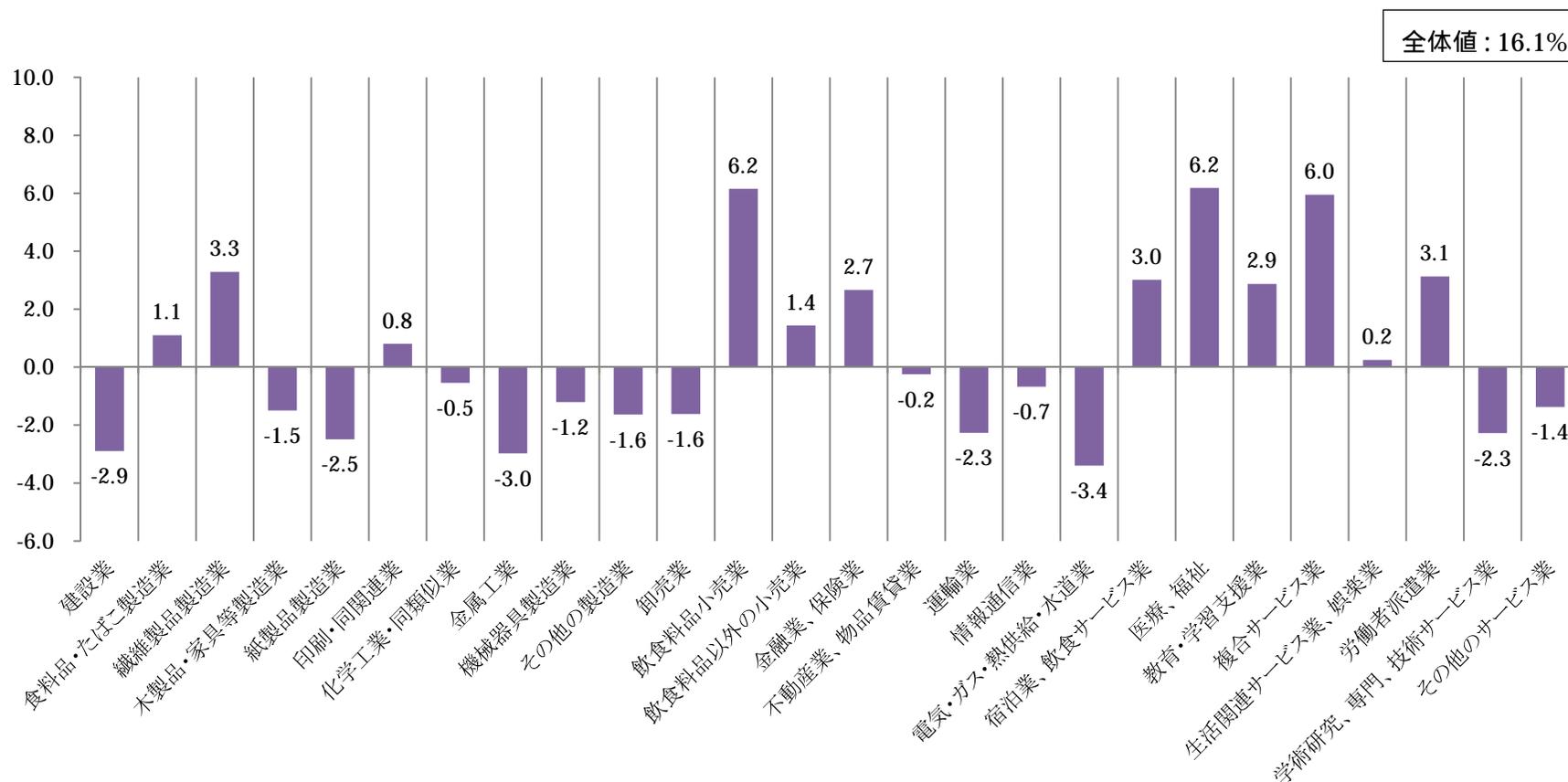
【女性】



業態別にみた「夕食後に間食（3食以外の夜食）をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合：全体値 16.1%との差

業態別に「夕食後に間食（3食以外の夜食）をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合をみると、全体値 16.1%に対して、飲食料品小売業（+6.2ポイント）、医療、福祉（同）、複合サービス業（+6.0ポイント）の順に高い。逆に低いのは、電気・ガス・熱供給・水道業（-3.4ポイント）、金属工業（-3.0ポイント）、建設業（-2.9ポイント）となっている。

「夕食後に間食（3食以外の夜食）をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合（全体値との差）

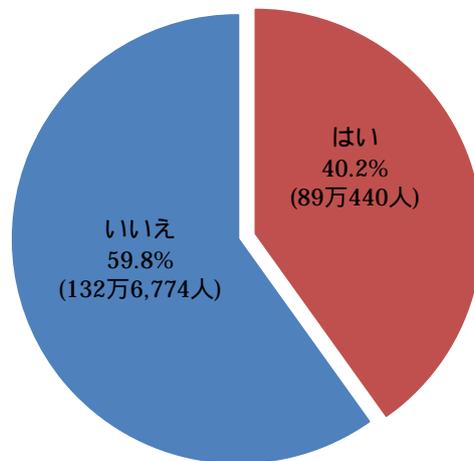


「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合

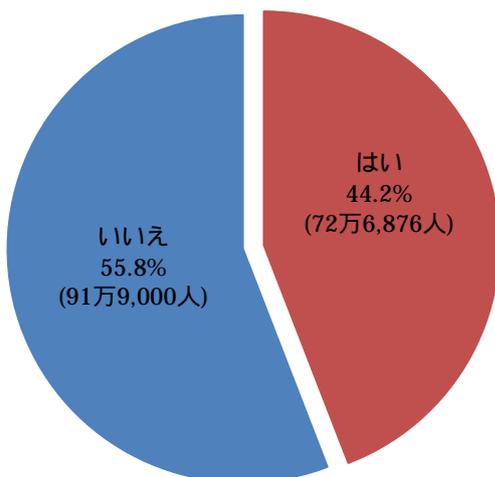
特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、問診回答において「就寝前の 2 時間以内に夕食をとることが週に 3 回以上ある」と回答した者³の割合は 40.2%で、全体の 4 割を占めている。

男女別に「はい」と回答した者の割合をみると、男性が 44.2%、女性が 28.6%で男性が圧倒的に高い割合を示している。

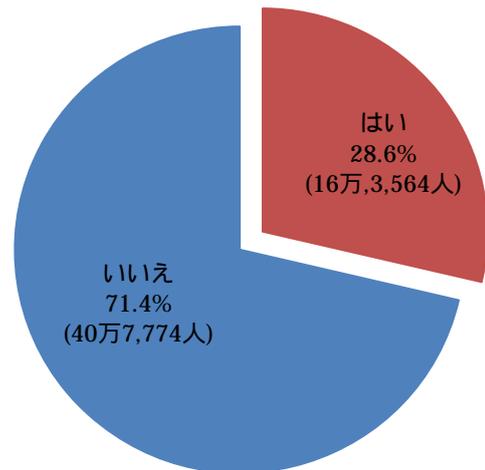
「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」



【男性】

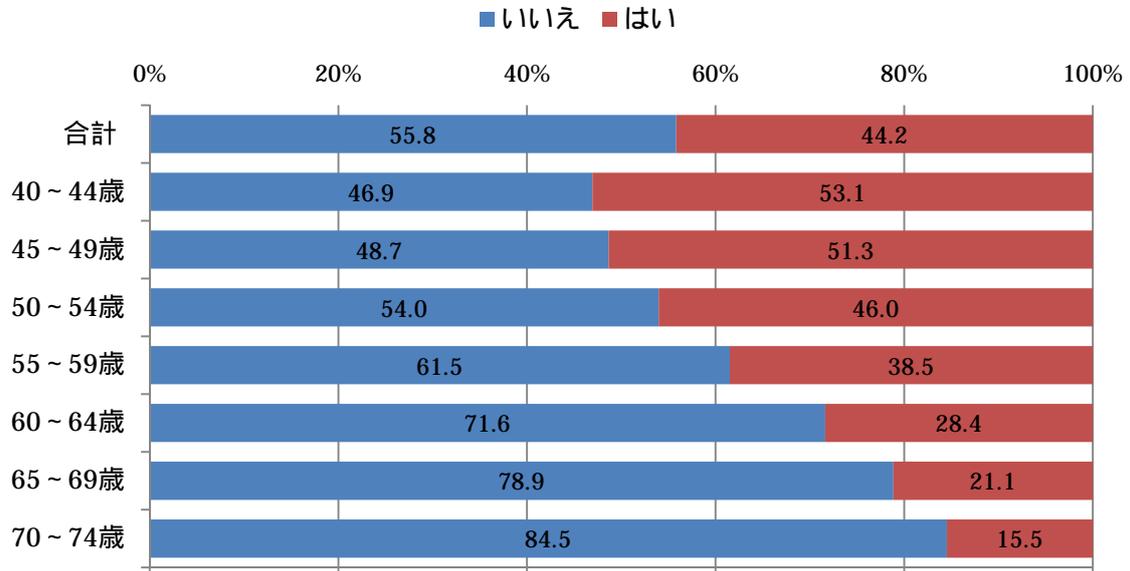


【女性】

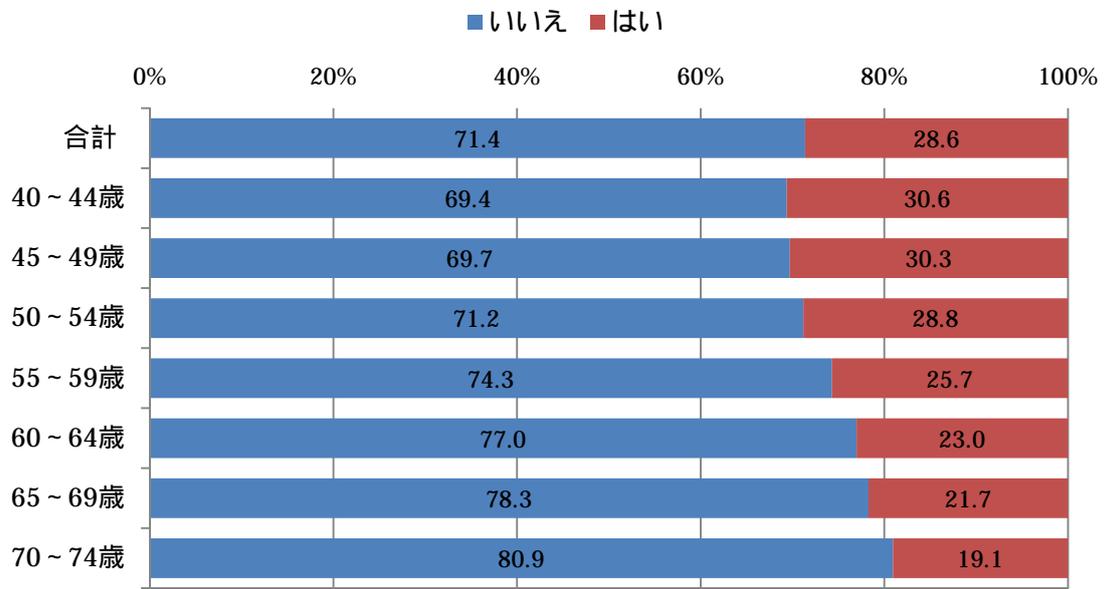


³ 当該質問項目の回答については必須項目ではないため、特定健診受診者 270 万 4,001 人のうち、回答者は合計 221 万 7,214 人（男性：164 万 5,876 人、女性：57 万 1,338 人）となっている。

【男性】



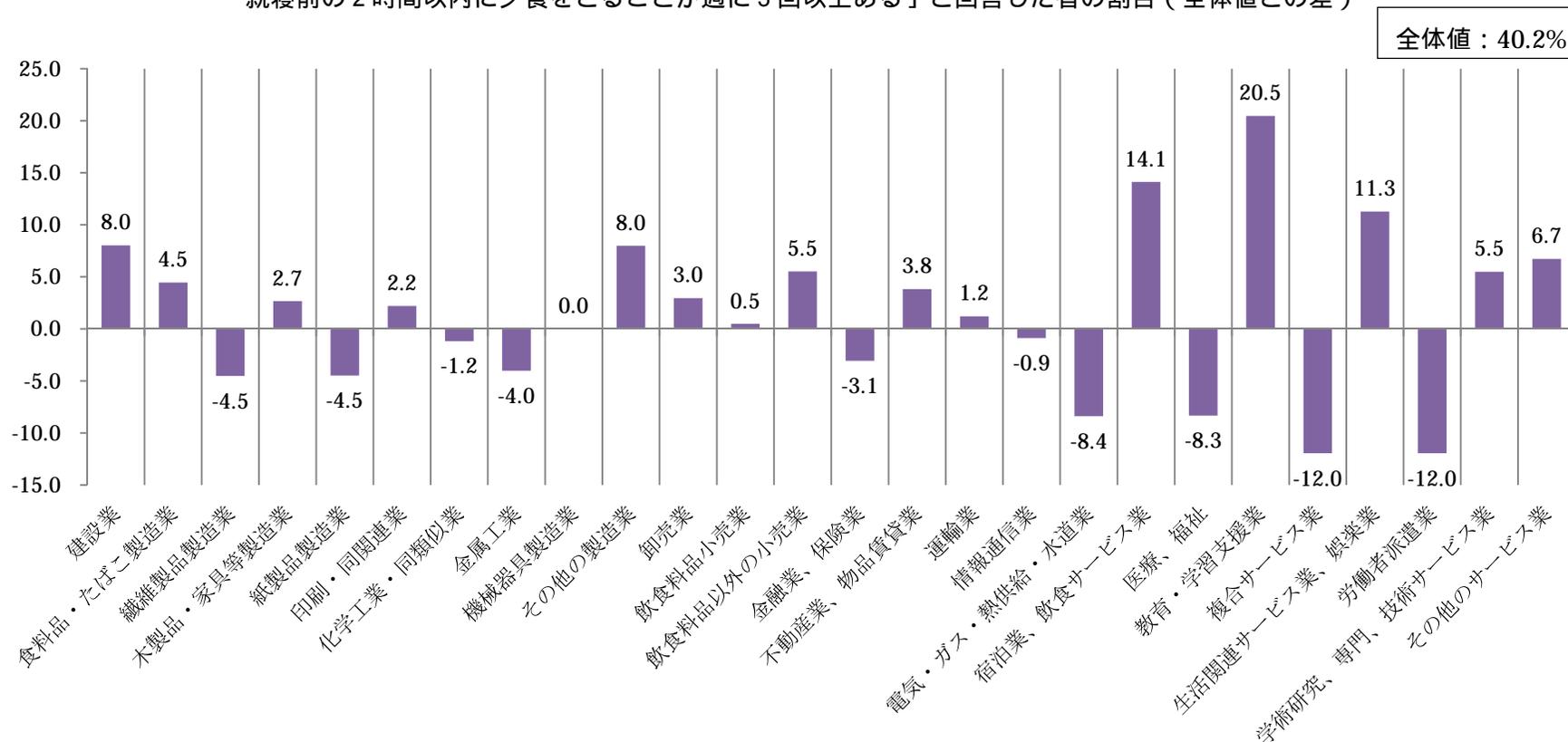
【女性】



業態別にみた「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合：全体値40.2%との差

業態別に「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合をみると、全体値40.2%に対して、教育・学習支援業(+20.5ポイント)、宿泊業、飲食サービス業(+14.1ポイント)、生活関連サービス業、娯楽業(+11.3ポイント)の順に高い。逆に低いのは、複合サービス業(-12.0ポイント)、労働者派遣業(同)、電気・ガス・熱供給・水道業(-8.4ポイント)となっている。

「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」と回答した者の割合（全体値との差）

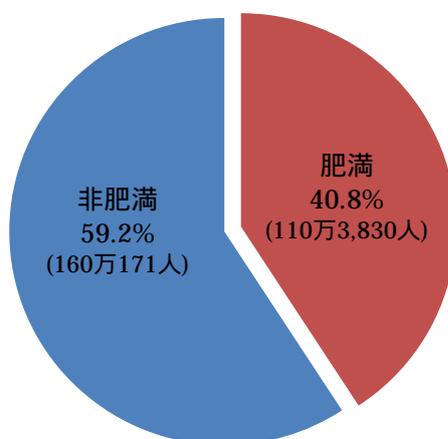


2. 「肥満」・「非肥満」の割合

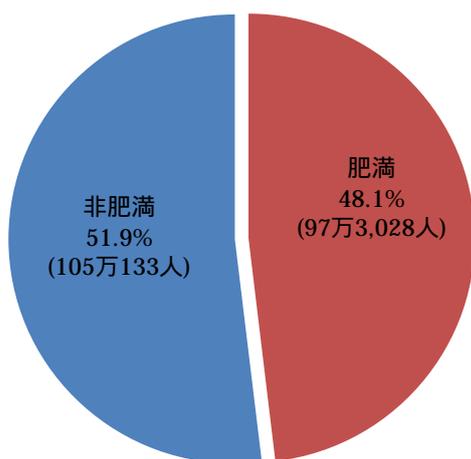
特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人の「肥満」・「非肥満」の割合をみると、「肥満」が 40.8% (110 万 3,830 人)、「非肥満」が 59.2% となっており、全体の約 4 割が「肥満」該当者となっている。

男女別にみると、「肥満」の該当者の割合は、男性：48.1%、女性：19.2%と、男性の割合が圧倒的に高い。

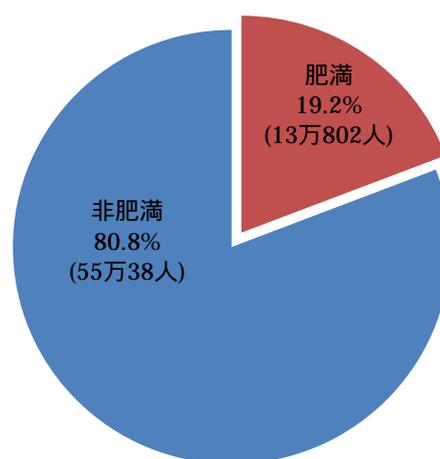
「肥満」・「非肥満」判定別該当者割合
【合計】



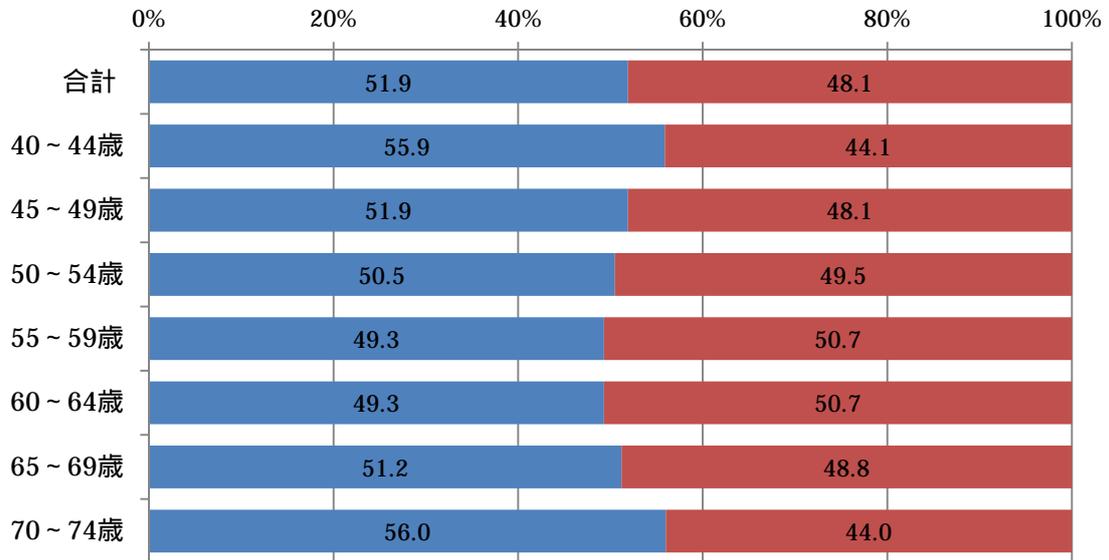
【男性】



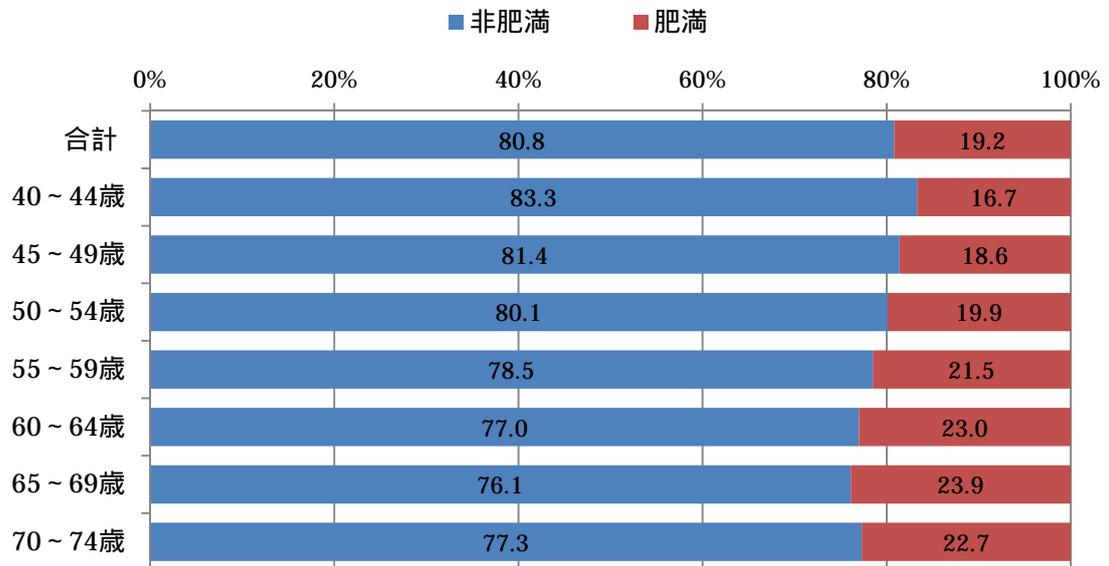
【女性】



【男性】



【女性】

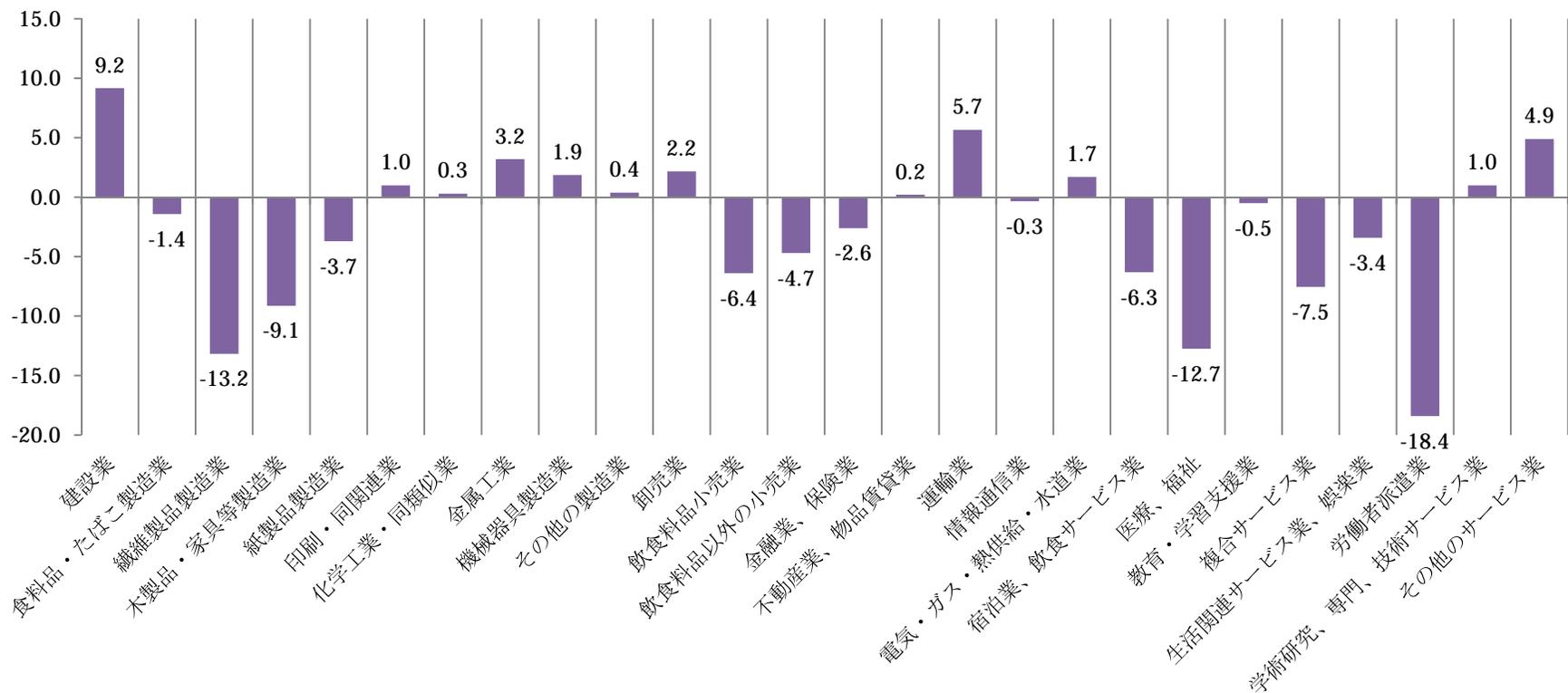


業態別にみた【肥満】該当者の割合：全体値 40.8%との差

業態別に「肥満」該当者の割合をみると、全体値：40.8%に対して、建設業（+9.2ポイント） 運輸業（+5.7ポイント） その他のサービス業（+4.9ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-18.4ポイント） 繊維製品製造業（-13.2ポイント） 医療、福祉（-12.7ポイント）となっている。

【肥満】該当者の割合（全体値との差）

全体値：40.8%



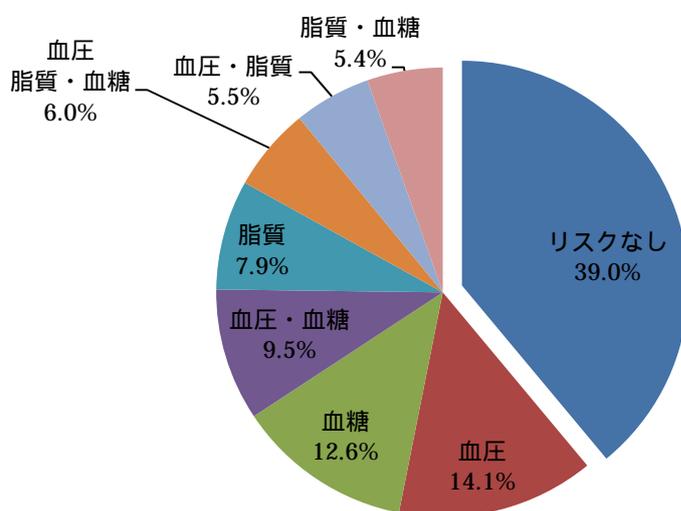
3. 健診検査値リスク有無別にみた該当者構成割合

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人の健診検査値(血圧・脂質・血糖)のリスク別構成割合をみると、いずれのリスクも保有していない該当者は 39.0%であり、約 6 割合が「血圧」・「脂質」・「血糖」の何らかのリスクを保有している状況にある。

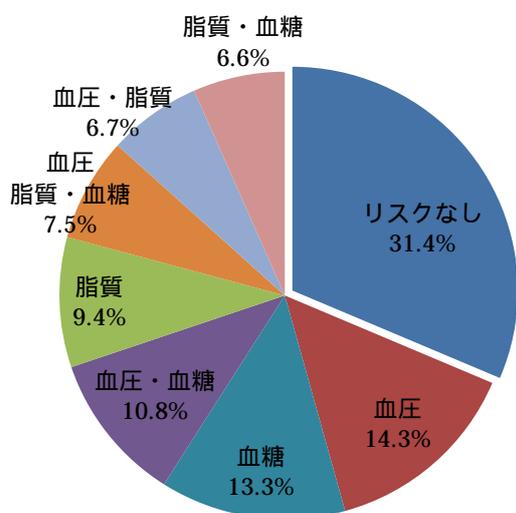
健診検査値のリスク該当者が最も多いのは、「血圧」:14.1%で、次いで、「血糖」:12.6%、「血圧」・「血糖」:9.5%となっている。

男女別にみると、「リスクなし」は男性:31.4%、女性:61.4%となっており、いずれのリスクを保有している者の割合は男性では約 7 割、女性では約 4 割と、男性が圧倒的に高い。

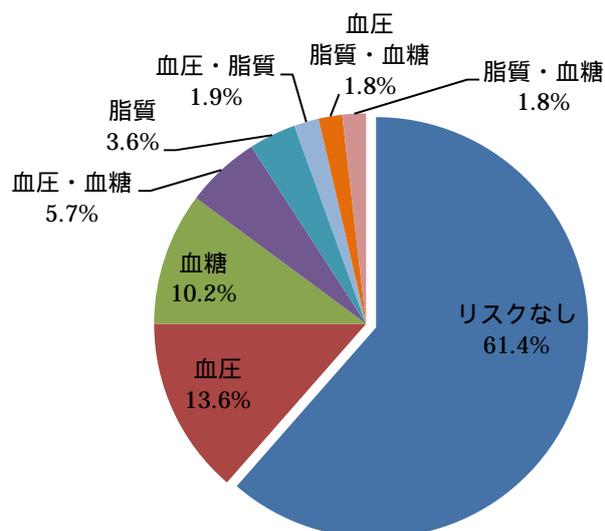
健診検査値リスク有無別該当者構成割合
【合計】



【男性】



【女性】

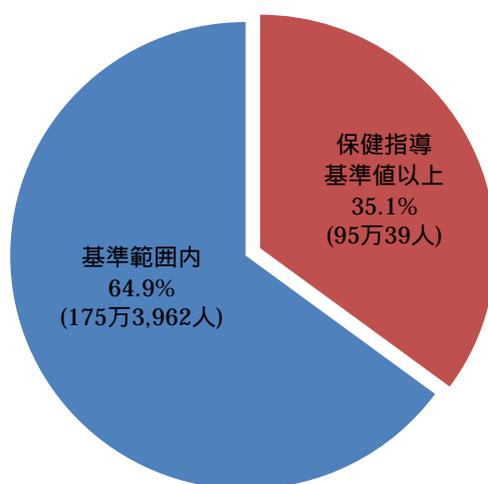


4. 「血圧」リスク保有者の割合

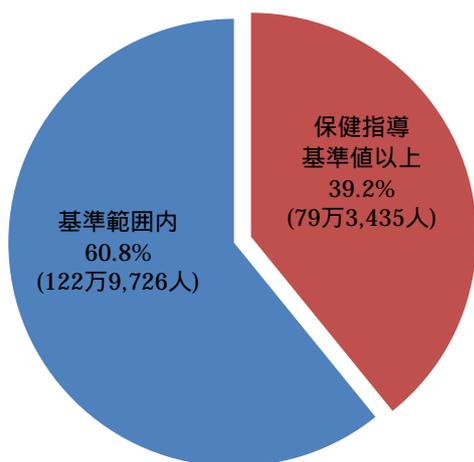
特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、「血圧」の値が保健指導基準値以上の者の割合は 35.1%となっている。

男女別にみると、保健指導基準値以上の者の割合は男性:39.2%、女性:23.0%と、男性が高い傾向にある。

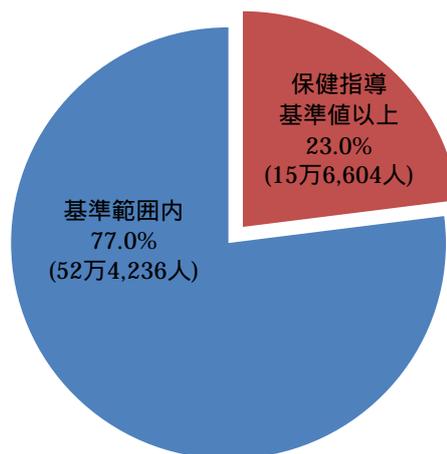
「血圧」リスク保有者の割合
【合計】



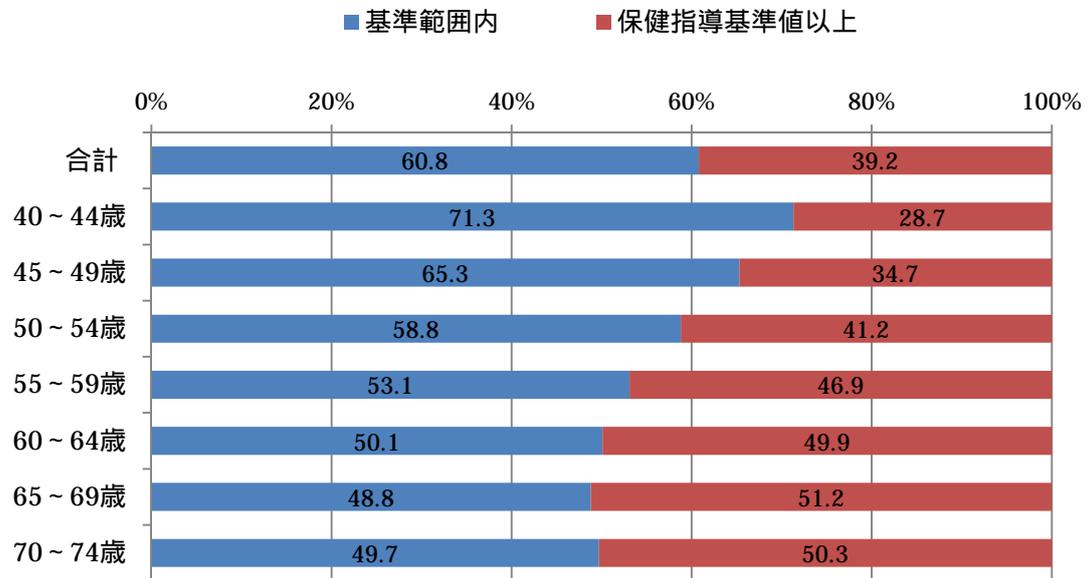
【男性】



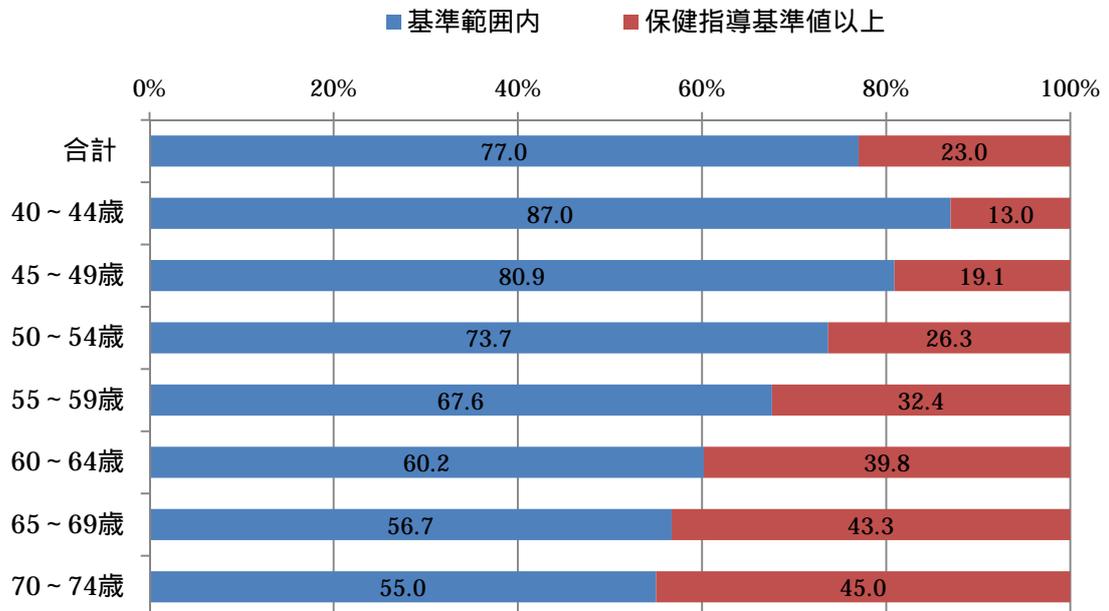
【女性】



【男性】



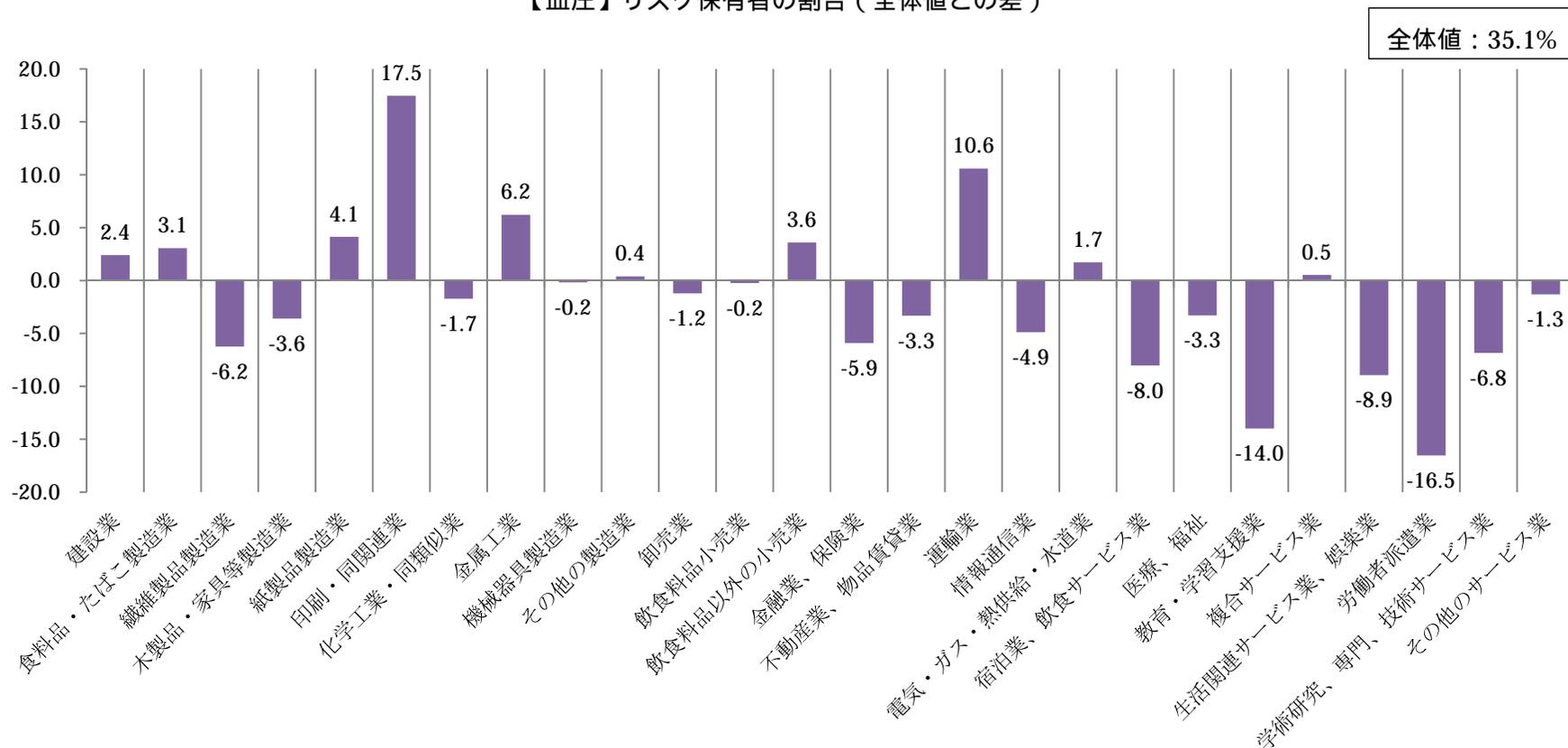
【女性】



業態別に見た【血圧】リスク保有者の割合：全体値 35.1%との差

業態別に「血圧」が保健指導基準値以上のリスク保有者の割合をみると、全体値：35.1%に対して、印刷・同関連業（+17.5ポイント）運輸業（+10.6ポイント）金属工業（+6.2ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-16.5ポイント）教育・学習支援業（-14.0ポイント）生活関連サービス業、娯楽業（-8.9ポイント）となっている。

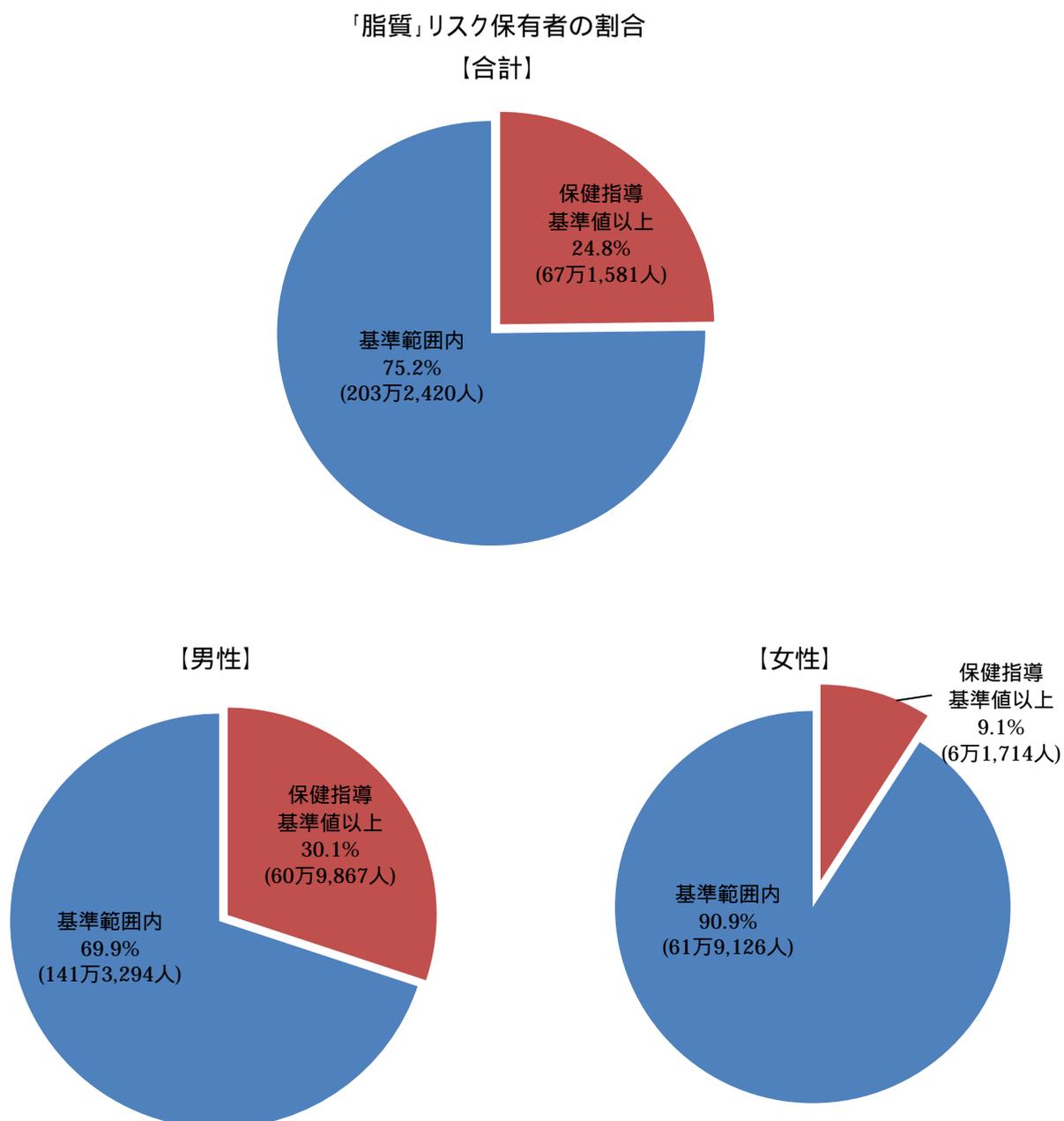
【血圧】リスク保有者の割合（全体値との差）



5. 「脂質」リスク保有者の割合⁴

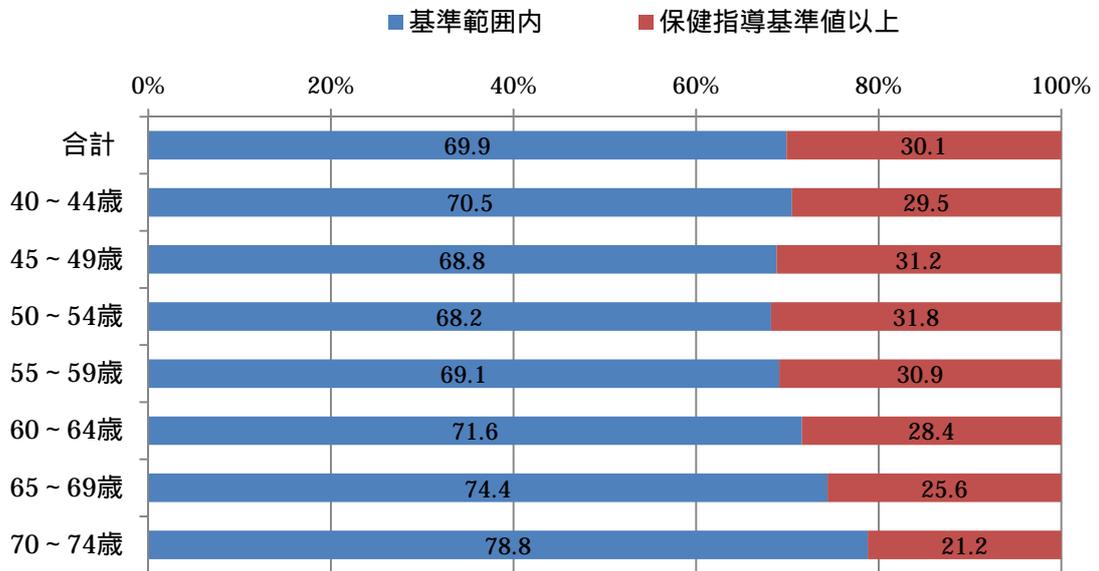
特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、「脂質」の値が保健指導基準値以上の者の割合は 24.8%となっている。

男女別にみると、保健指導基準値以上の者の割合は男性：30.1%、女性：9.1%と、男性が圧倒的に高い。

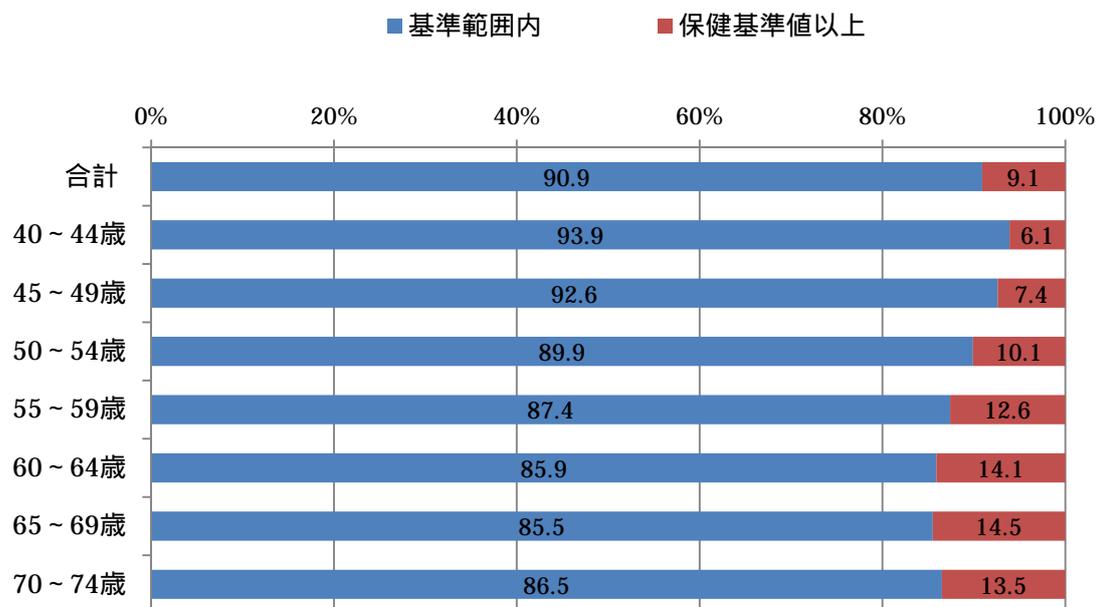


⁴ 「脂質」リスク保有者については、保健指導対象者の選定と階層化において対象となる検査項目に「LDL コレステロール」判定値を含まないため、本稿でもこれを除外して算出している(以下、同じ)。

【男性】



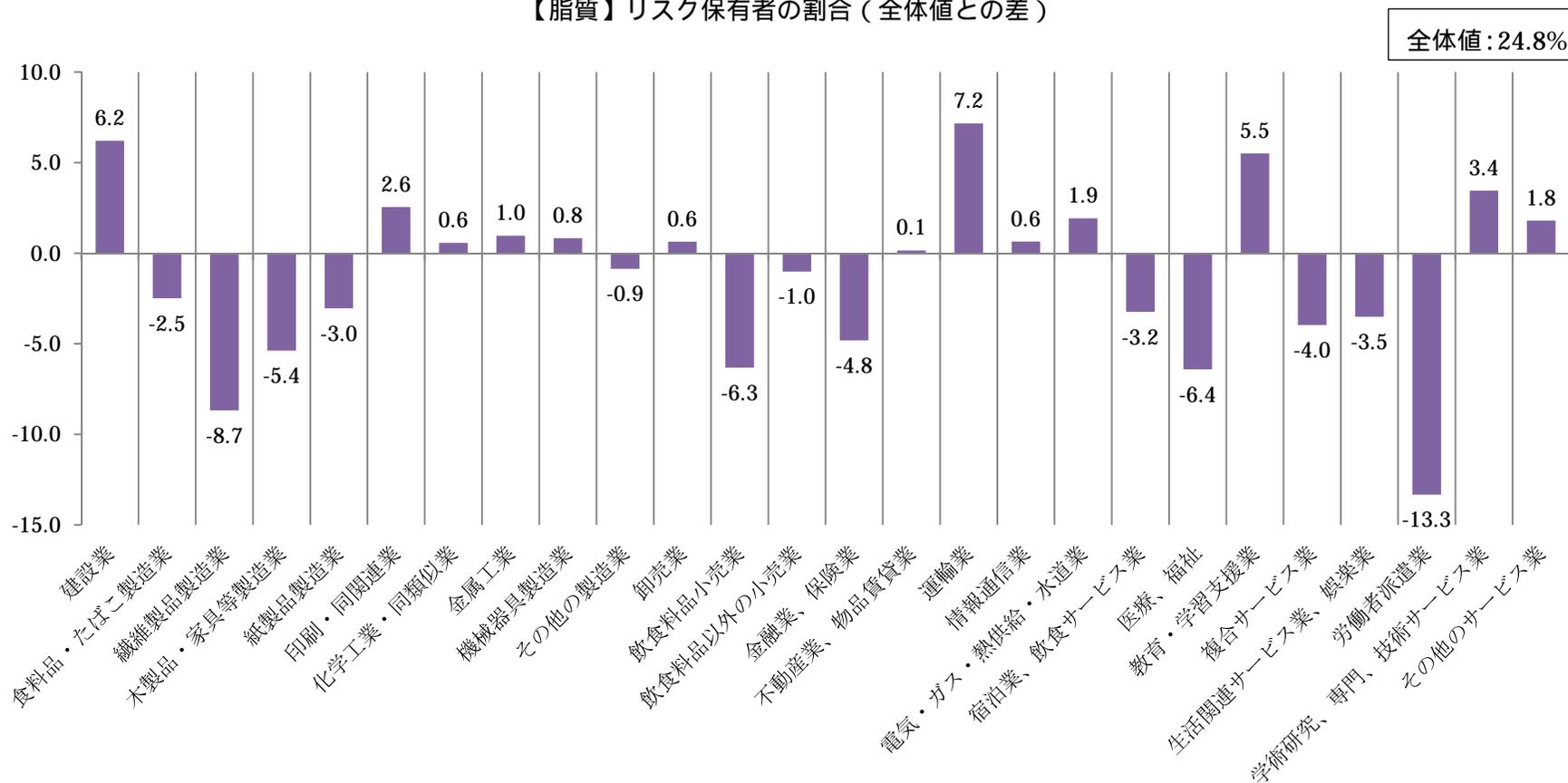
【女性】



業態別にみた【脂質】リスク保有者の割合：全体値 24.8%との差

業態別に「脂質」が保健指導基準値以上のリスク保有者の割合をみると、全体値：24.8%に対して、運輸業（+7.2ポイント）、建設業（+6.2ポイント）、教育・学習支援業（+5.5ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-13.3ポイント）、繊維製品製造業（-8.7ポイント）、医療、福祉（-6.4ポイント）となっている。

【脂質】リスク保有者の割合（全体値との差）

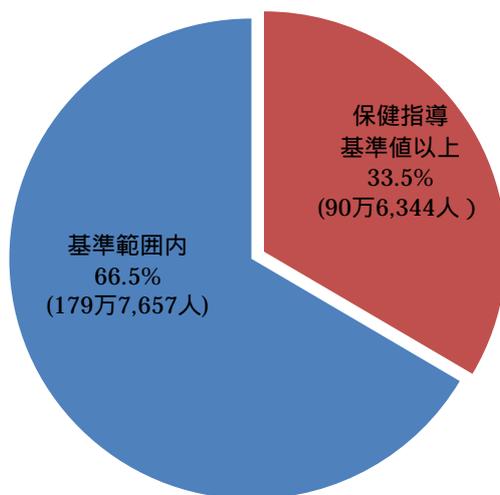


6. 「血糖」リスク保有者の割合

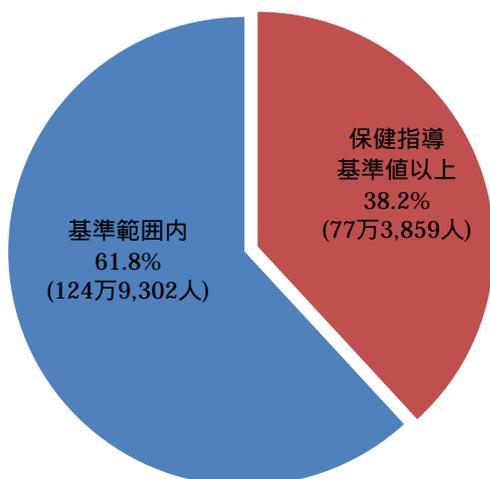
特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、「血糖」の値が保健指導基準値以上の者の割合は 33.5%となっている。

男女別にみると、保健指導基準値以上の者の割合は男性:38.2%、女性:19.5%と、男性が高い傾向にある。

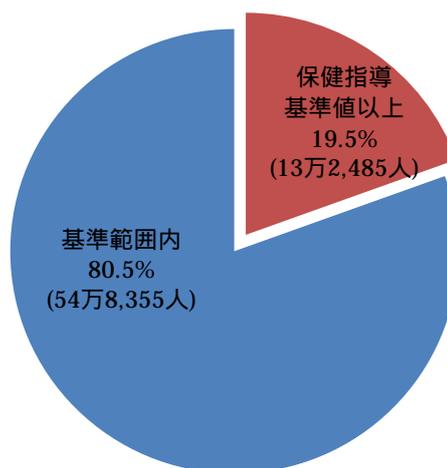
「血糖」リスク保有者の割合
【合計】



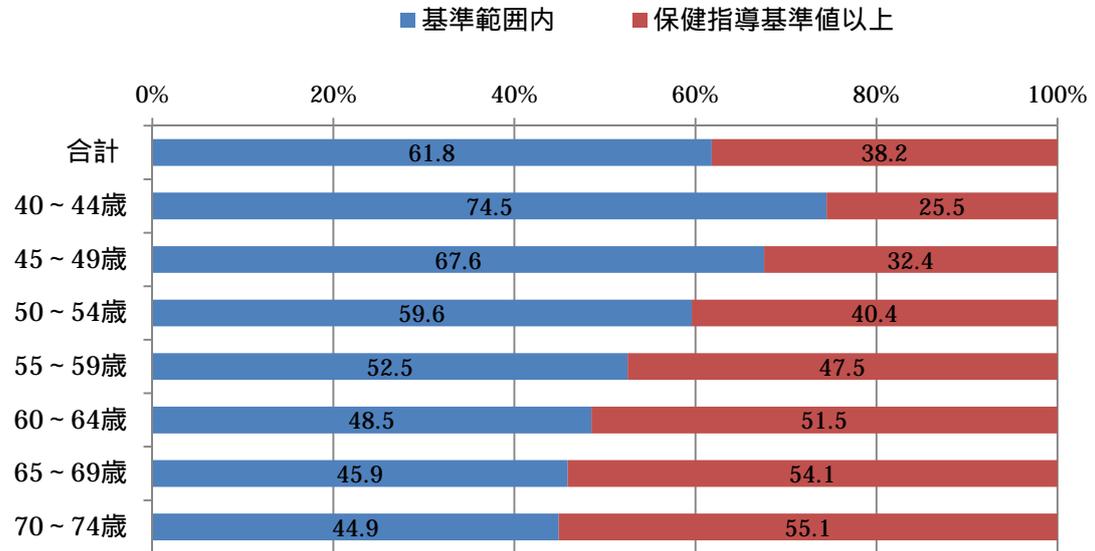
【男性】



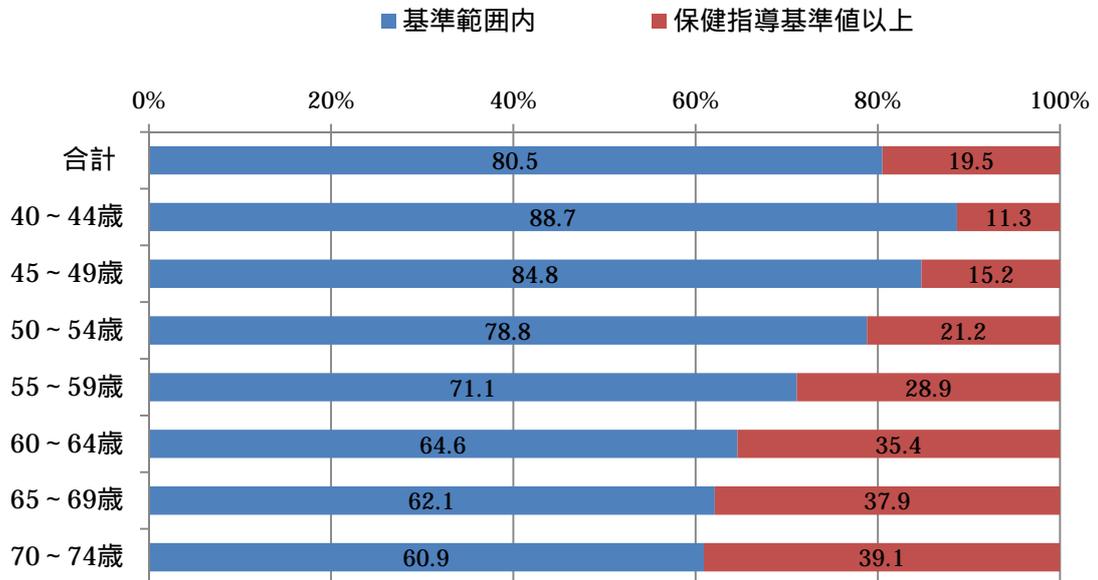
【女性】



【男性】



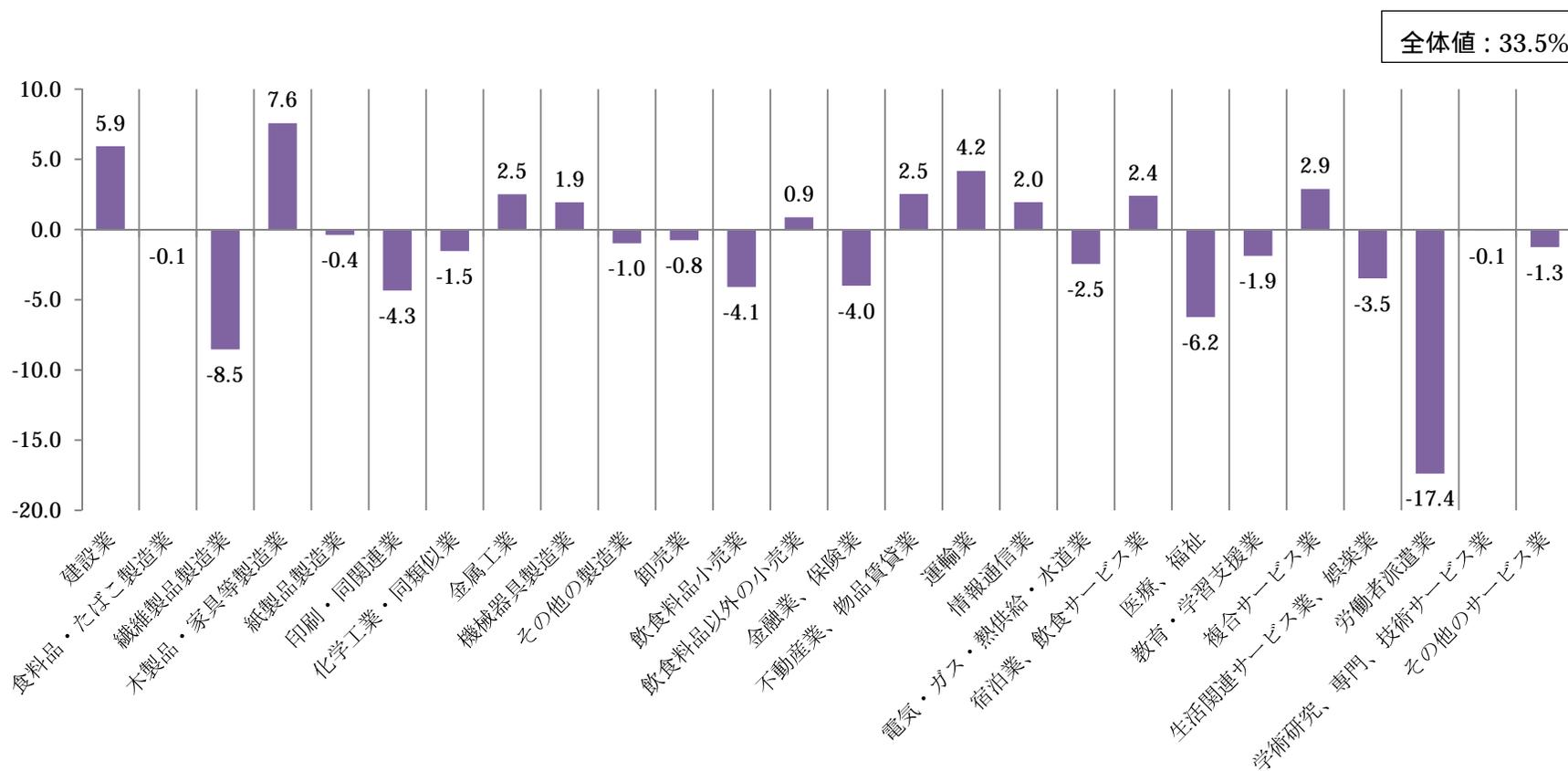
【女性】



業態別にみた【血糖】リスク保有者の割合：全体値 33.5%との差

業態別に「血糖」が保健指導基準値以上のリスク保有者の割合をみると、全体値：33.5%に対して、木製品・家具等製造業(+7.6ポイント)、建設業(+5.9ポイント)、運輸業(+4.2ポイント)の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業(-17.4ポイント)、繊維製品製造業(-8.5ポイント)、医療、福祉(-6.2ポイント)となっている。

【血糖】リスク保有者の割合（全体値との差）



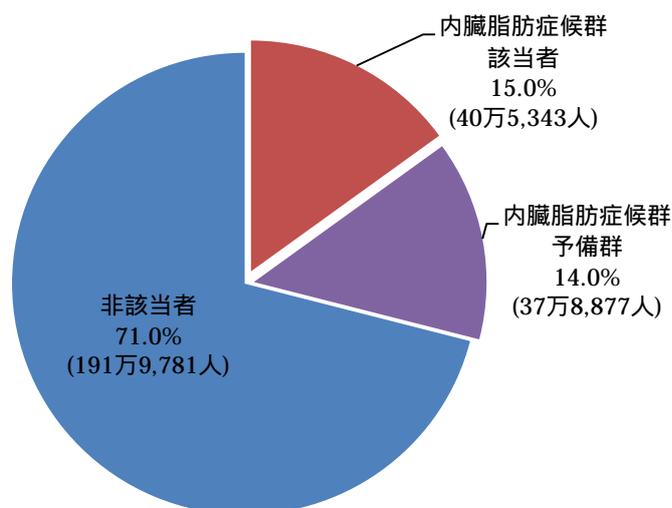
7. 内臓脂肪症候群該当者・予備群該当者の割合

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、内臓脂肪症候群該当者は 15.0%、予備群は 14.0%となっている。

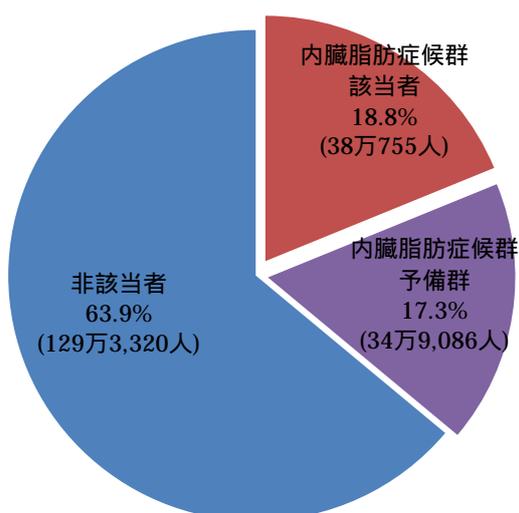
男女別にみると、該当者・予備群ともに男性のほうが高く、男性：該当者 18.8%、予備群 17.3%、女性：該当者 3.6%、予備群 4.4%となっている。

内臓脂肪症候群該当者・予備群の割合

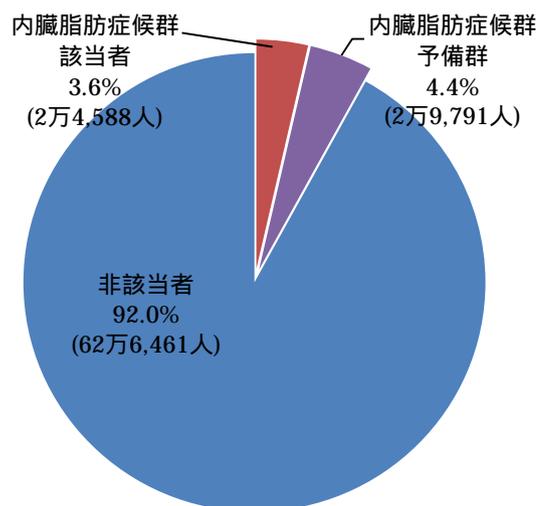
【合計】



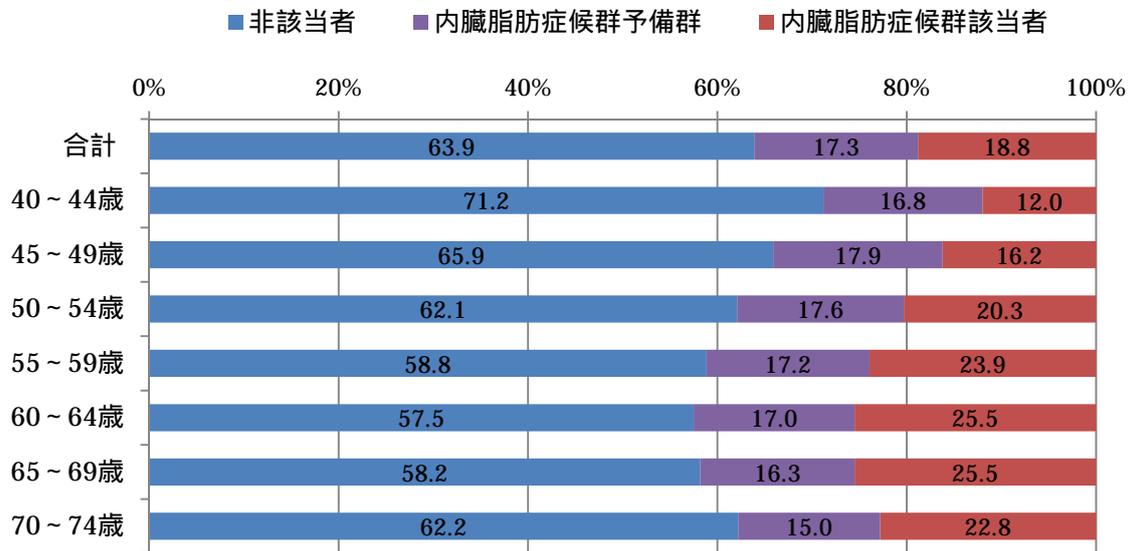
【男性】



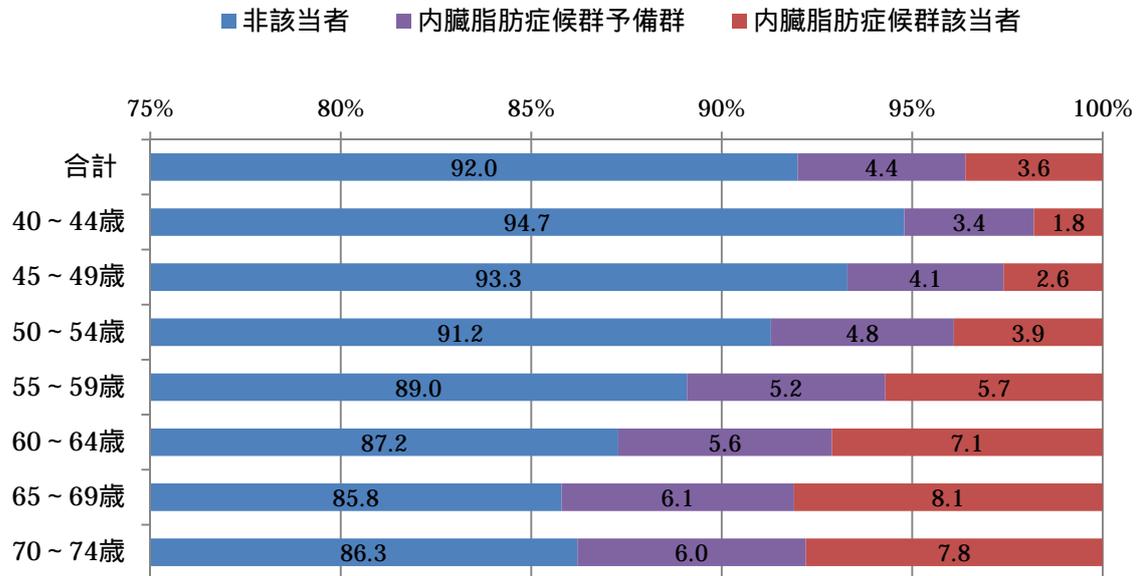
【女性】



【男性】

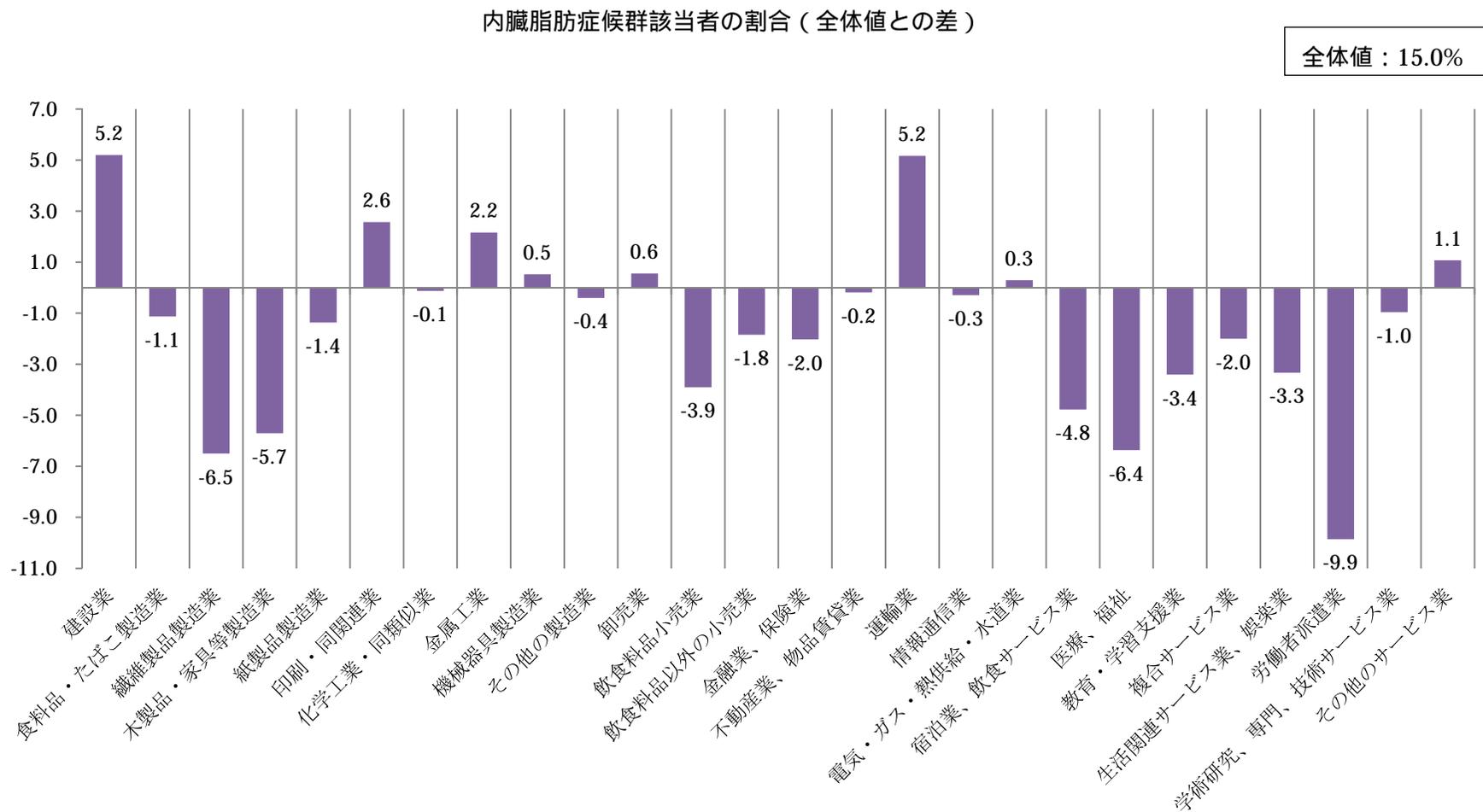


【女性】



業態別にみた内臓脂肪症候群該当者の割合：全体値 15.0%との差

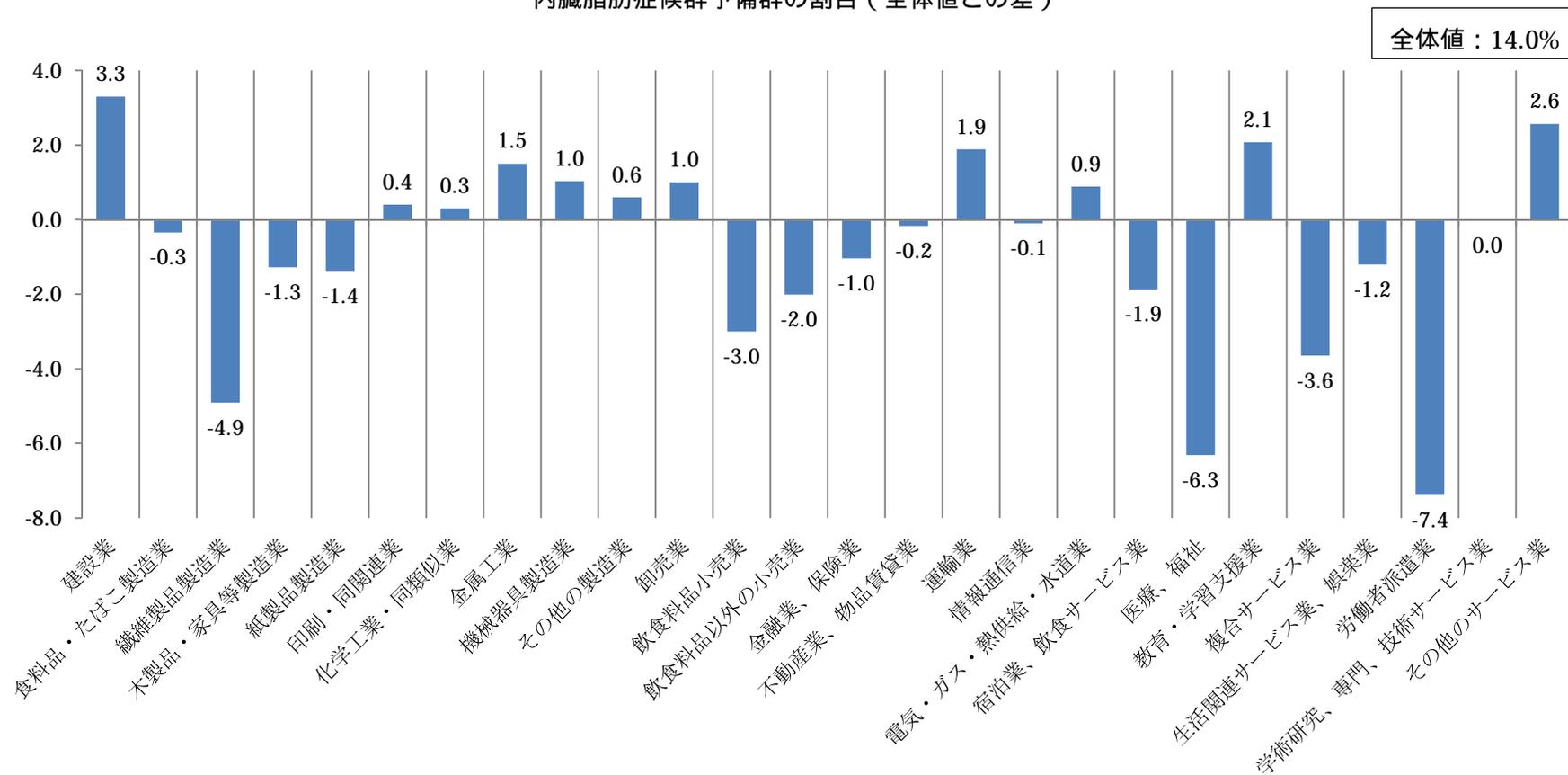
業態別に「内臓脂肪症候群」該当者の割合をみると、全体値：15.0%に対して、建設業（+5.2ポイント）、運輸業（同）、印刷・同関連業（+2.6ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-9.9ポイント）、繊維製品製造業（-6.5ポイント）、医療、福祉（-6.4ポイント）となっている。



業態別にみた内臓脂肪症候群予備群の割合：全体値 14.0%との差

業態別に「肥満」該当者の割合をみると、全体値：14.0%に対して、建設業（+3.3ポイント）、其他サービス業（+2.6ポイント）、教育・学習支援業（+2.1ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-7.4ポイント）、医療、福祉（-6.3ポイント）、繊維製品製造業（-4.9ポイント）となっている。

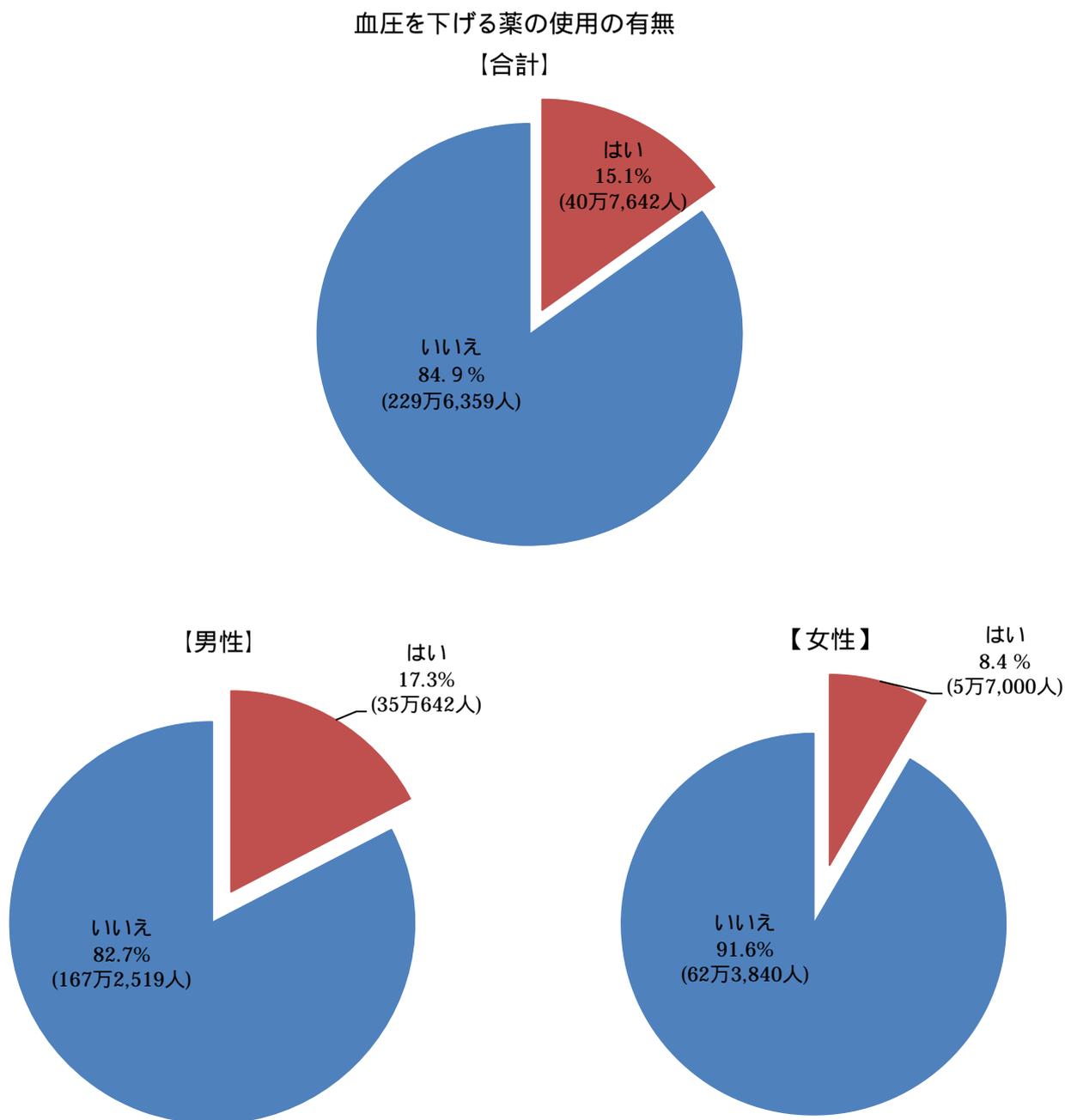
内臓脂肪症候群予備群の割合（全体値との差）



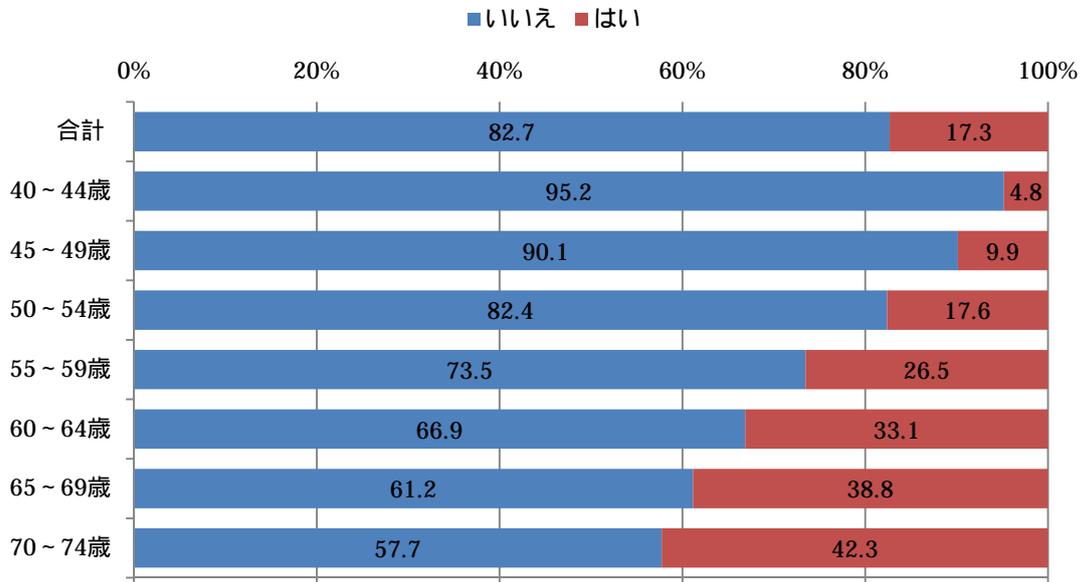
8. 血圧を下げる薬の使用の有無

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、問診回答「血圧を下げる薬の使用の有無」について、使用あり(はい)と回答した者の割合は 15.1%となっている。

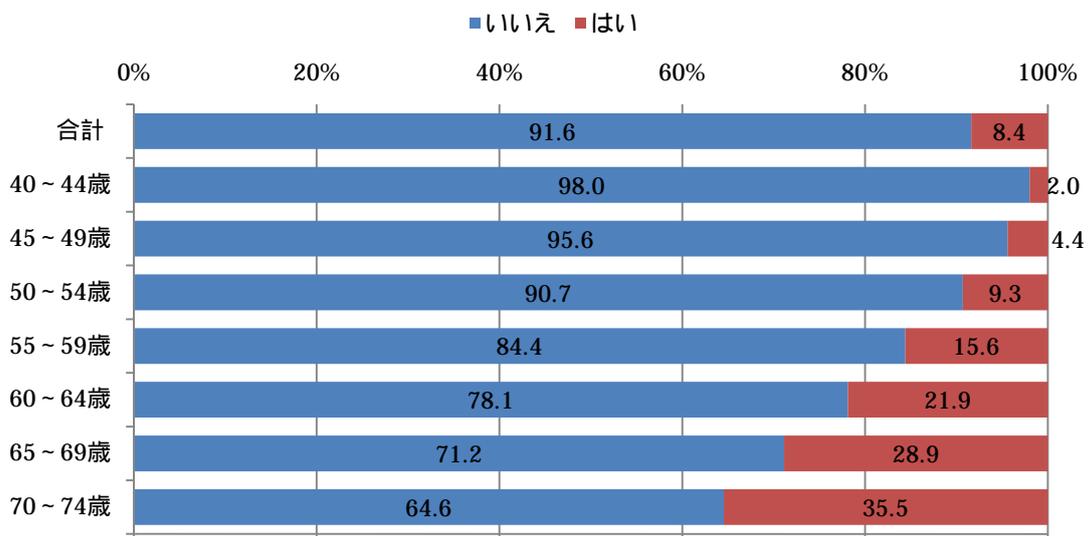
男女別に「使用あり」(はい)と回答した者の割合をみると、男性が 17.3%、女性が 8.4%と男性のほうが高い割合を示している。



【男性】

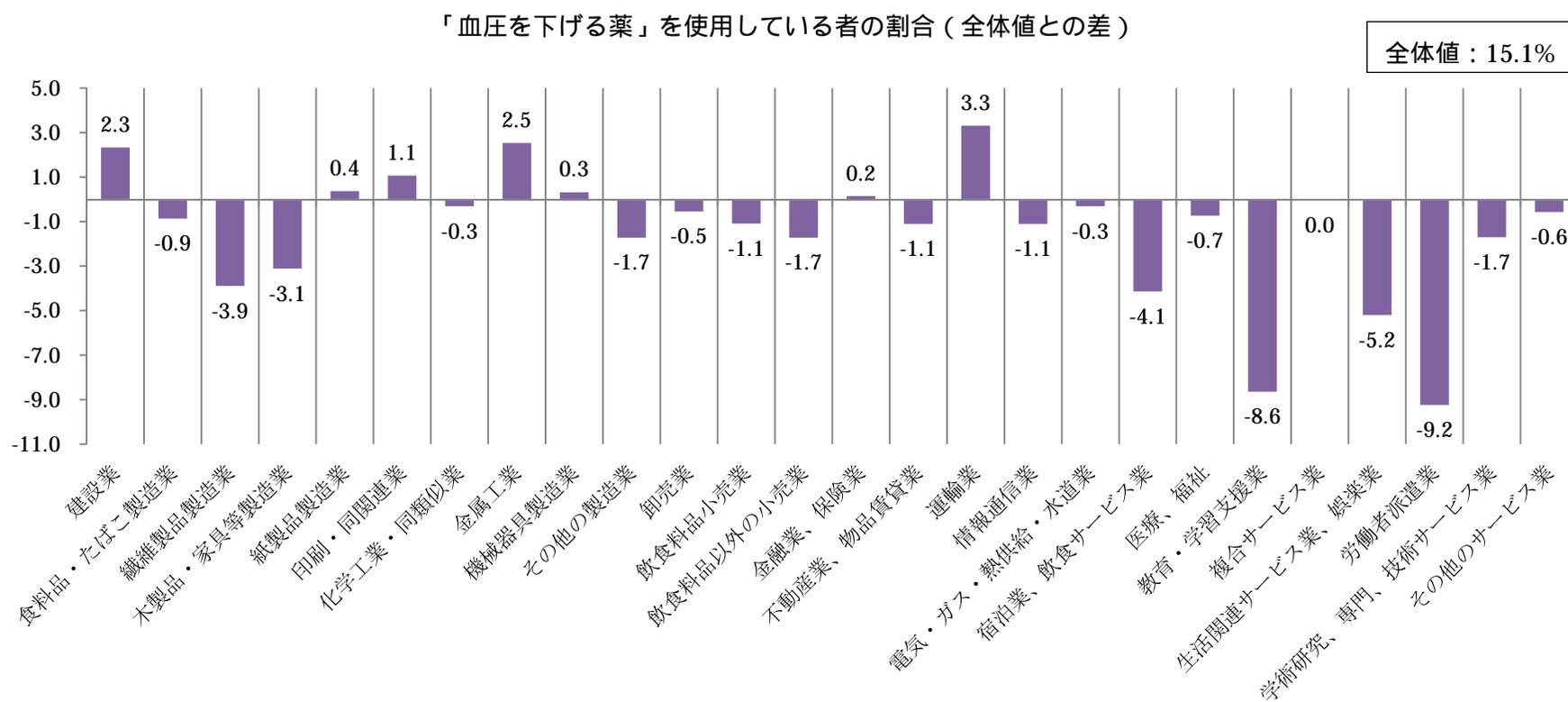


【女性】



業態別に見た「血圧を下げる薬」を使用している者の割合：全体値 15.1%との差

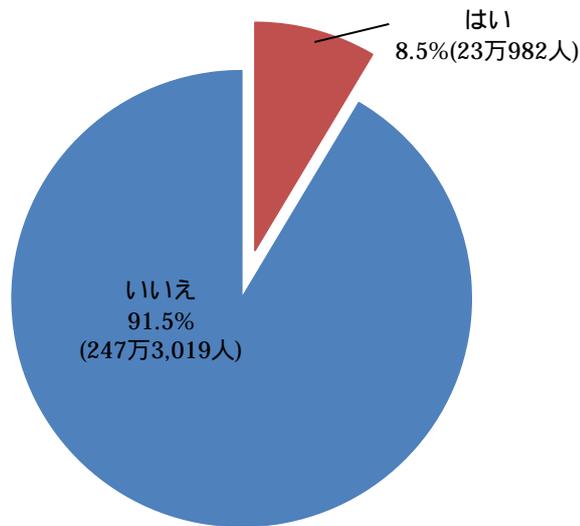
業態別に「血圧を下げる薬」を服薬している者の割合をみると、全体値：15.1%に対して、運輸業（+3.3ポイント）、金属工業（+2.5ポイント）、建設業（+2.3ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-9.2ポイント）、教育・学習支援業（-8.6ポイント）、生活関連サービス業、娯楽業（-5.2ポイント）となっている。



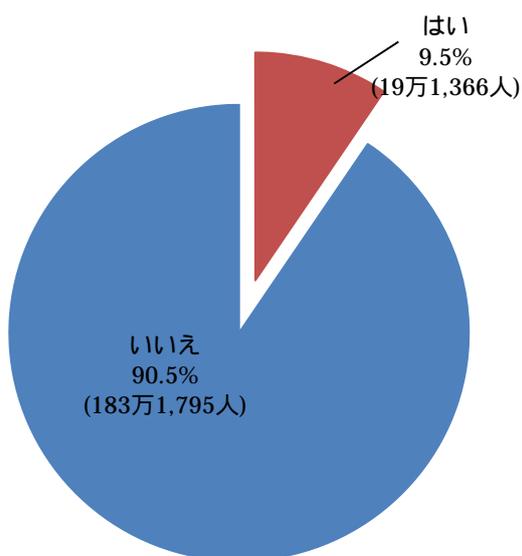
9. コレステロールを下げる薬の使用の有無

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、問診回答「コレステロールを下げる薬の使用の有無」について、使用あり(はい)と回答した者の割合は 8.5%となっている。男女別に「使用あり」(はい)と回答した者の割合をみると、男性が 9.5%、女性が 5.8%と男性のほうがやや高い割合を示している。

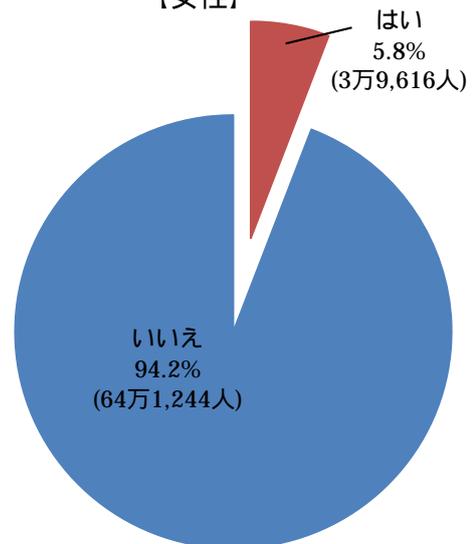
コレステロールを下げる薬の使用の有無
【合計】



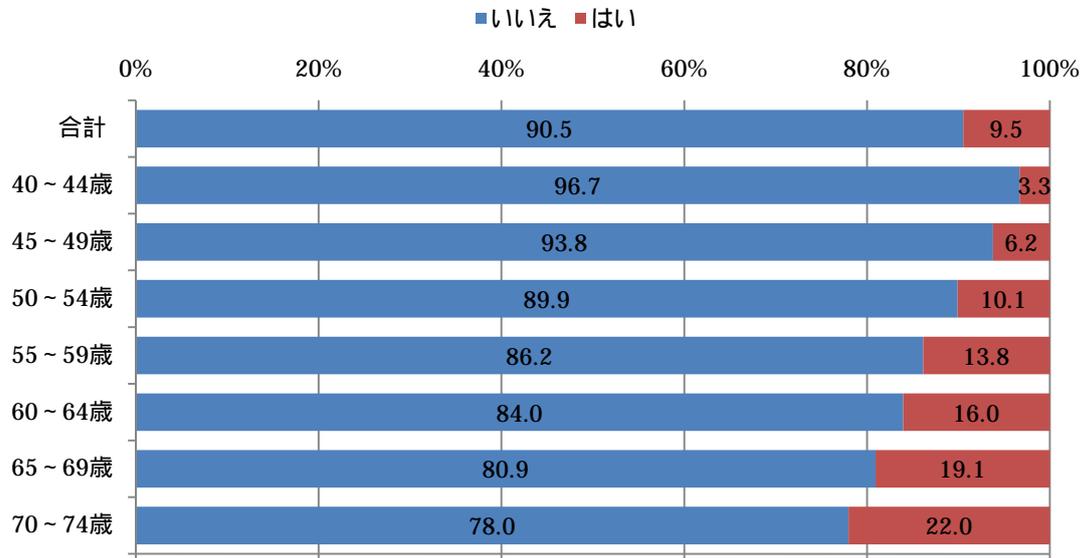
【男性】



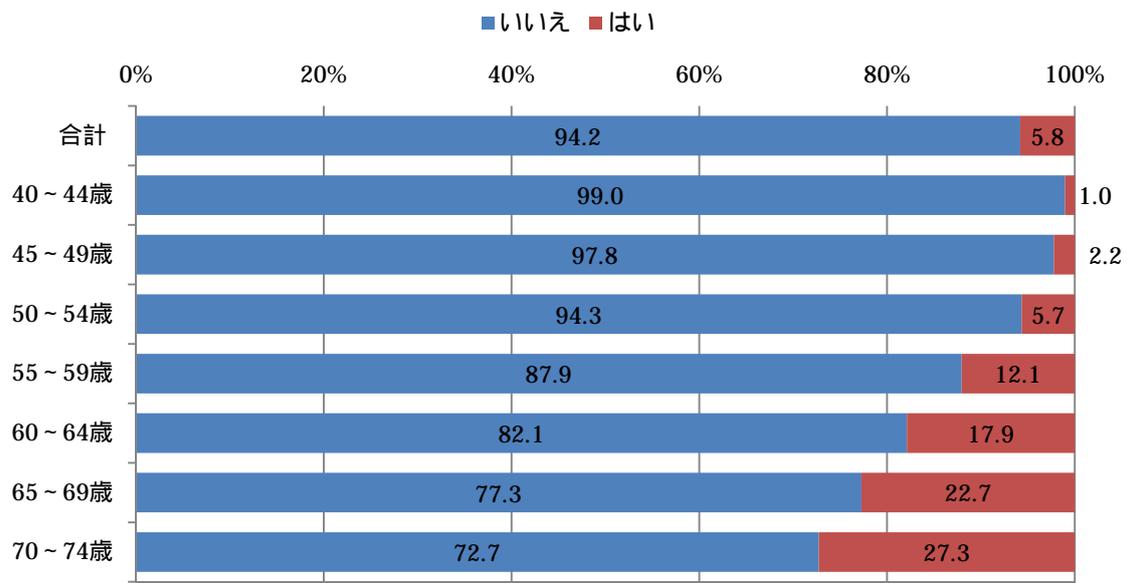
【女性】



【男性】



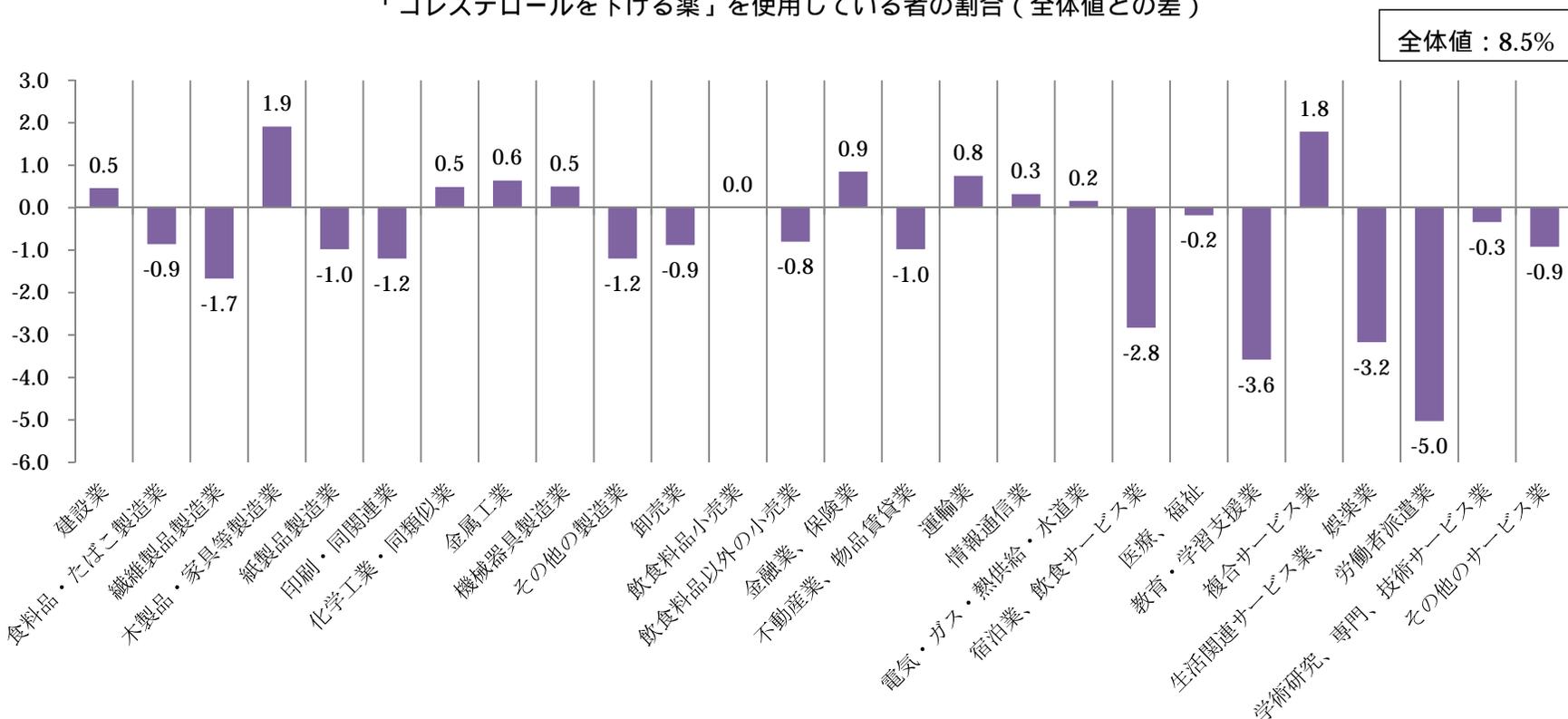
【女性】



業態別にみた「コレステロールを下げる薬」を使用している者の割合：全体値 8.5%との差

業態別に「コレステロールを下げる薬」を服用している者の割合をみると、全体値：8.5%に対して、木製品・家具等製造業(+1.9ポイント)、複合サービス業(+1.8ポイント)、金融業、保険業(+0.9ポイント)の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業(-5.0ポイント)、教育・学習支援業(-3.6ポイント)、生活関連サービス業、娯楽業(-3.2ポイント)となっている。

「コレステロールを下げる薬」を使用している者の割合（全体値との差）



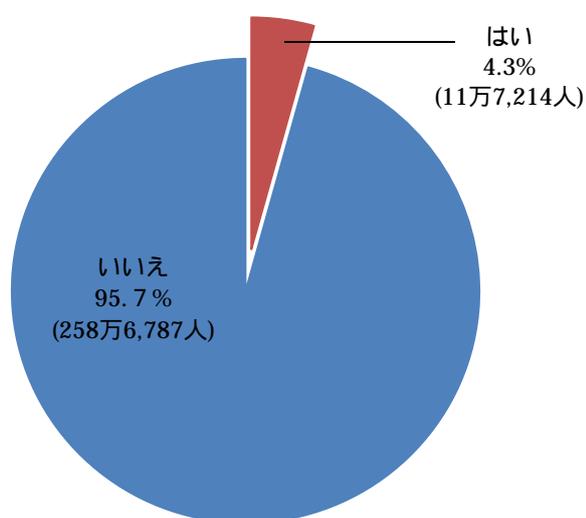
10. インスリン注射または血糖を下げる薬の使用の有無

特定健診を受診した被保険者 270 万 4,001 人のうち、問診回答「インスリン注射または血糖を下げる薬の使用の有無」について、「使用有り」(はい)と回答した者の割合は 4.3%となっている。

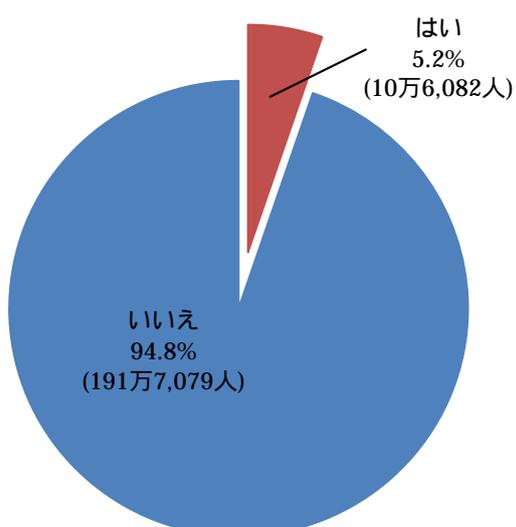
男女別に「使用あり」(はい)と回答した者の割合をみると、男性：5.2%、女性：1.6%と、男性のほうがやや高い割合を示している。

インスリン注射または血糖を下げる薬の使用の有無

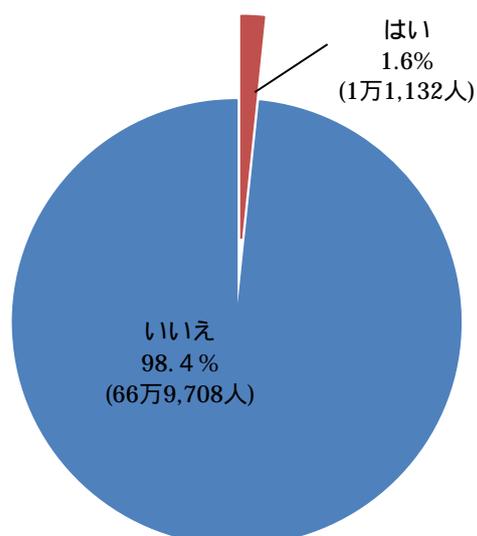
【合計】



【男性】



【女性】



【男性】



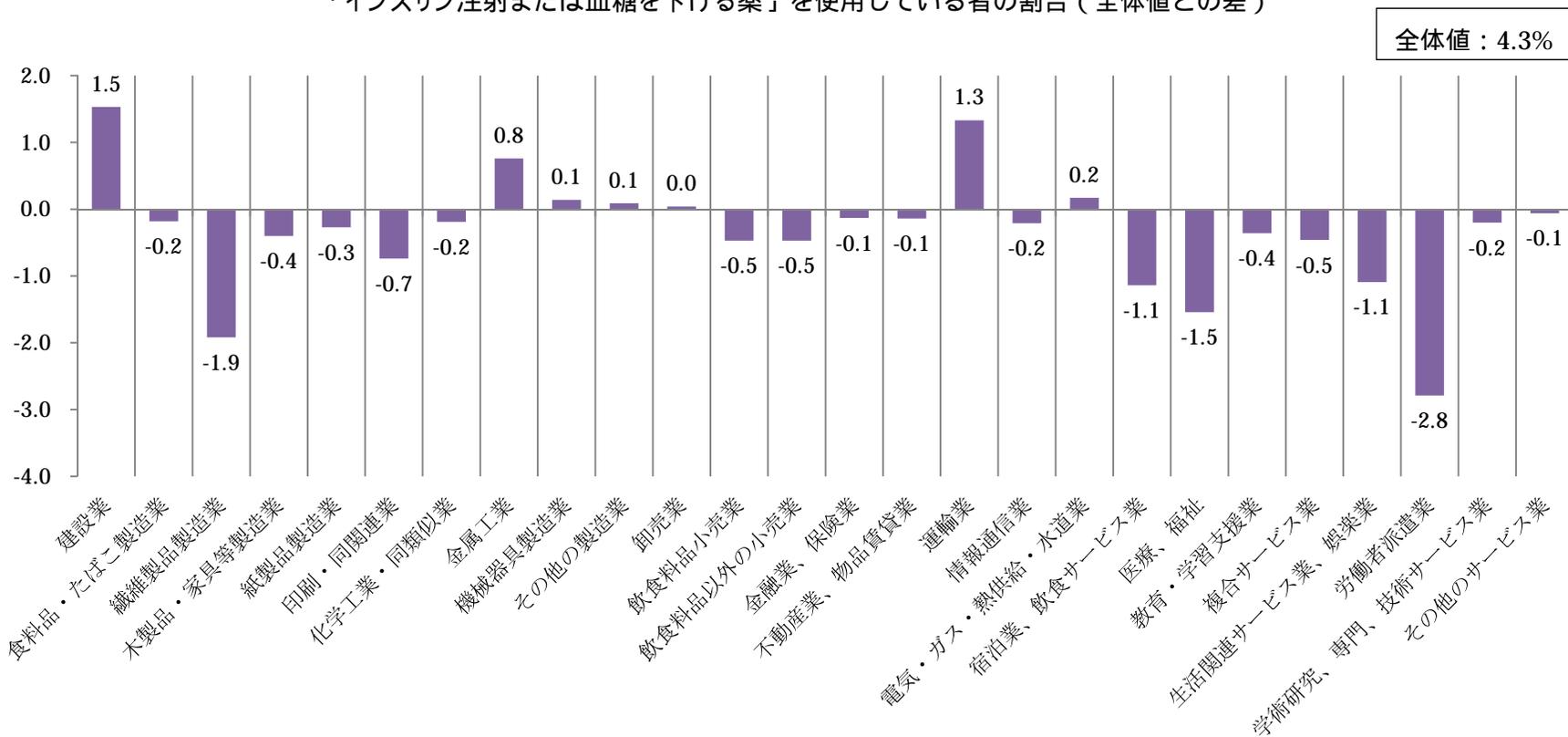
【女性】



業態別にみた「インスリン注射または血糖を下げる薬」を使用している者の割合：全体値 4.3%との差

業態別に「インスリン注射または血糖を下げる薬」を服薬している者の割合をみると、全体値：4.3%に対して、建設業（+1.5ポイント） 運輸業（+1.3ポイント） 金属工業（+0.8ポイント）の順に高い。逆に低いのは、労働者派遣業（-2.8ポイント） 繊維製品製造業（-1.9ポイント） 医療・福祉（-1.5ポイント）となっている。

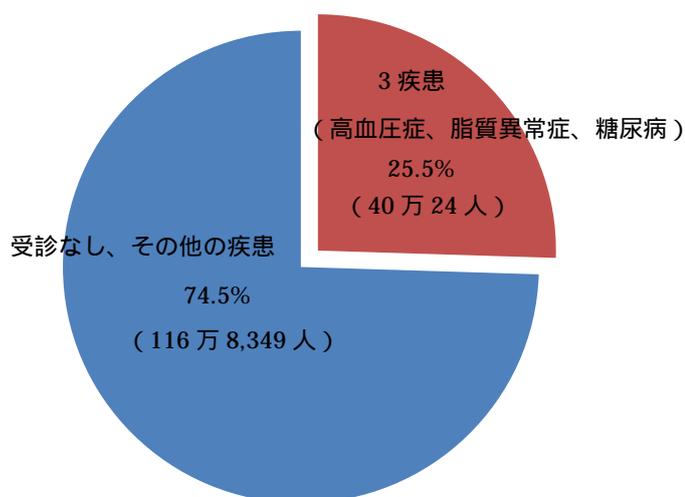
「インスリン注射または血糖を下げる薬」を使用している者の割合（全体値との差）



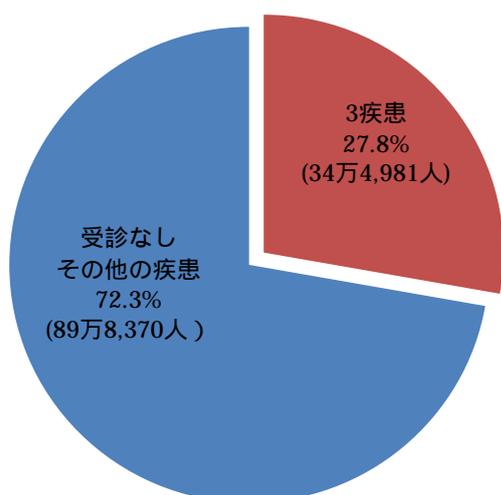
11. 健診受診者に占める生活習慣病 3 疾患有病者(入院外)の割合

特定健診を受診した被保険者 156 万 8,373 人⁵のうち、入院外における 高血圧症、脂質異常症、糖尿病 の 3 疾患の有病者割合⁶は 25.5%となっている。男女別にみると、男性:27.8%、女性:16.9%となっており、男性のほうが高い割合を示している。

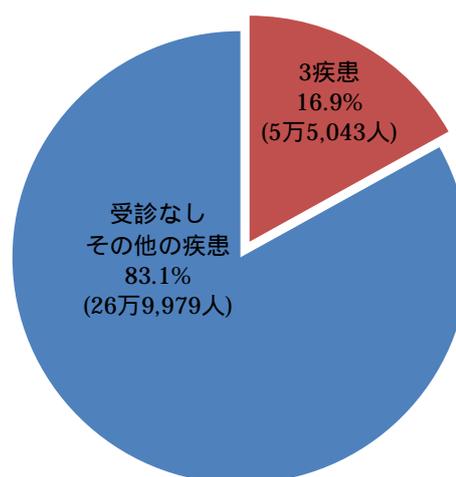
健診受診者に占める 3 疾患有病数の割合
【合計】



【男性】



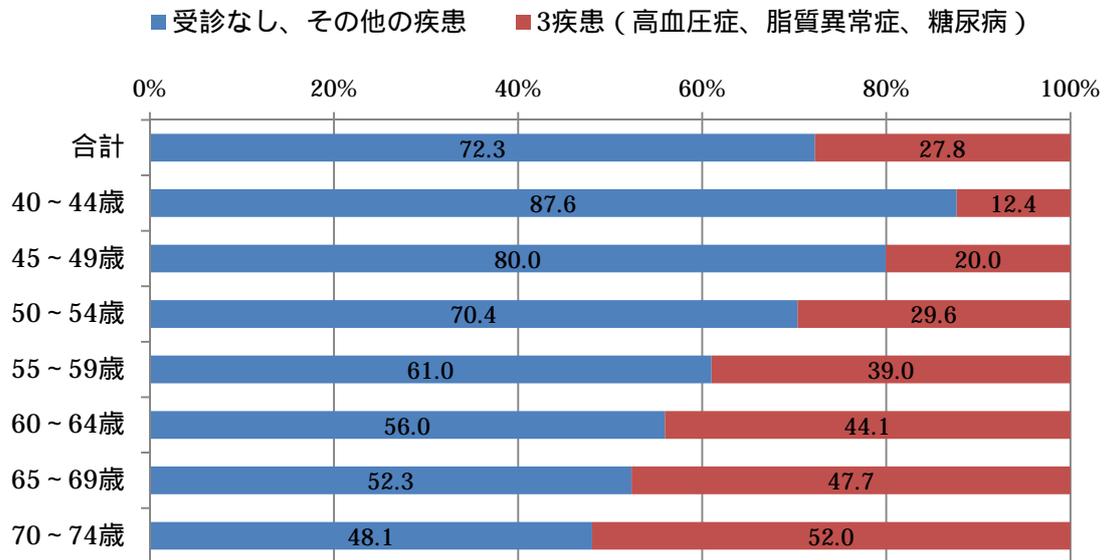
【女性】



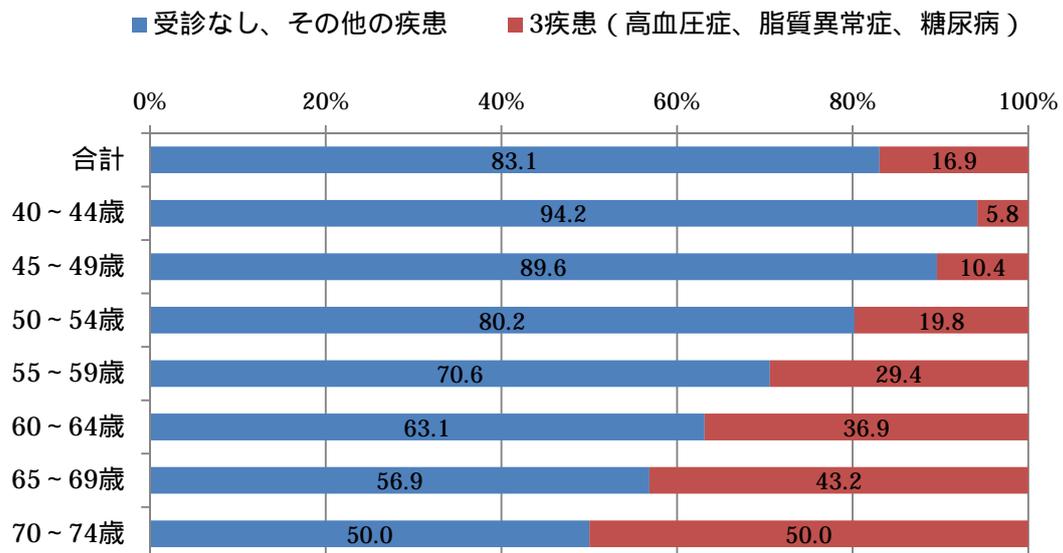
⁵ 以下では、平成 26 年度の特定健診を受診した被保険者で、かつ翌 27 年度のレセプトデータと紐付きが可能な 156 万 8,373 人(男性:124 万 3,351 人、女性:32 万 5,022 人)を調査対象としている。

⁶ 高血圧症・脂質異常症・糖尿病 3 疾患合計の有病者数(入院外)は、レセプト上に 3 疾患いずれかの疾患名が記載されている者の数である。

【男性】



【女性】



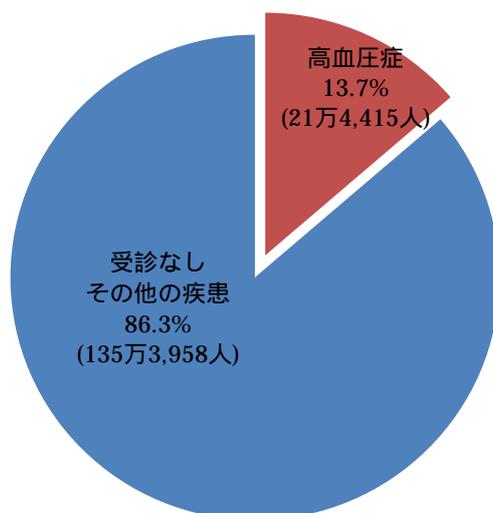
12. 健診受診者に占める「高血圧症」有病者(入院外)の割合

特定健診を受診者した被保険者 156 万 8,373 人のうち、入院外における「高血圧症」の有病者割合⁷は 13.7%となっている。

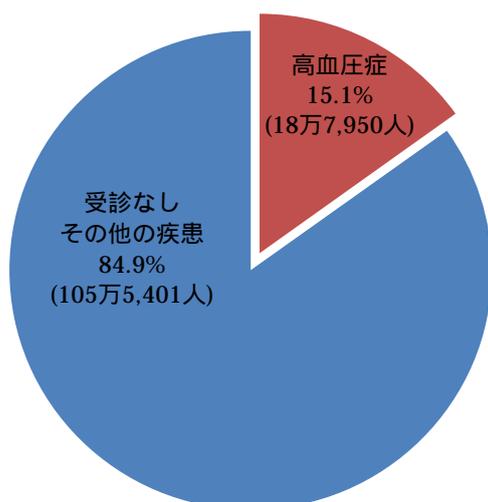
男女別にみると、男性:15.1%、女性:8.1%となっており、男性のほうが高い割合を示している。

健診受診者に占める「高血圧症」有病数の割合

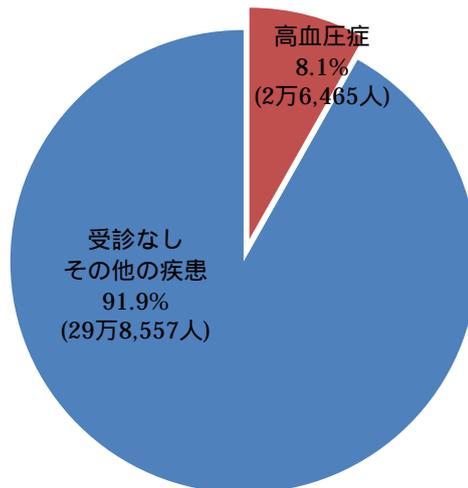
【合計】



【男性】

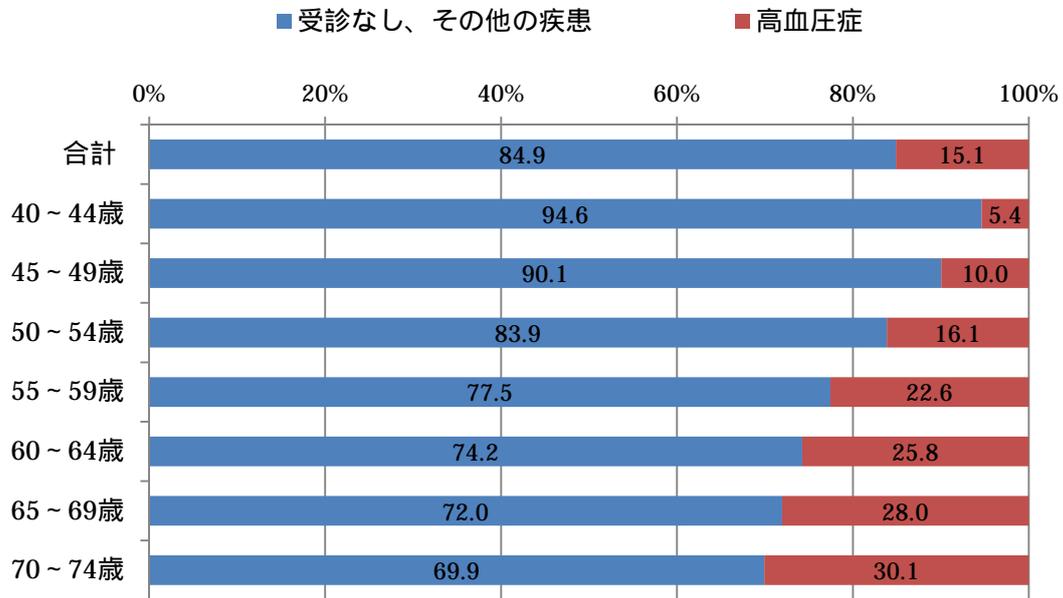


【女性】

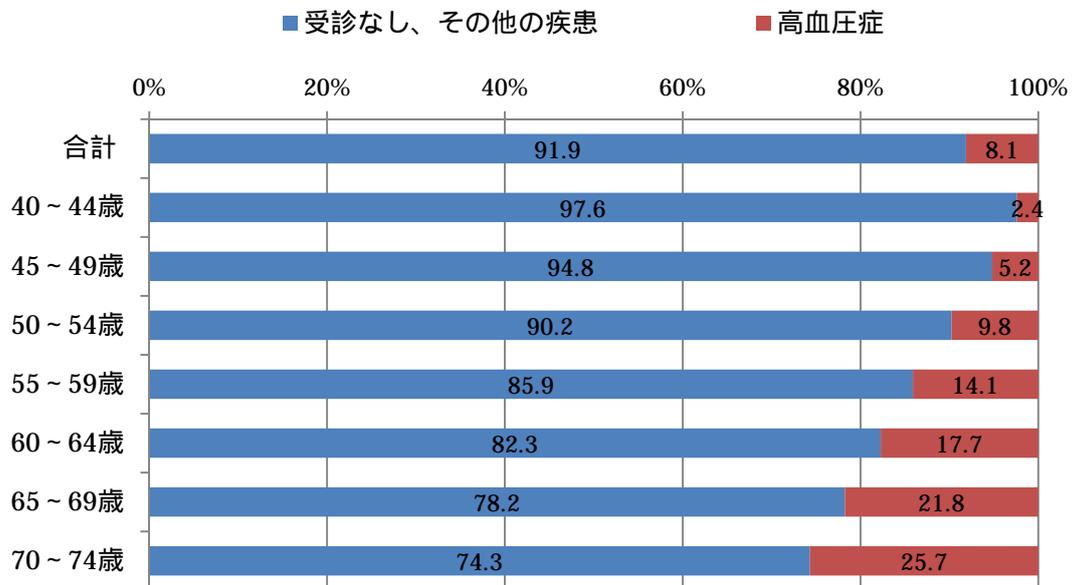


⁷ 当該有病者数(入院外)は、レセプト上に「高血圧症」が記載されている者の割合である。

【男性】



【女性】

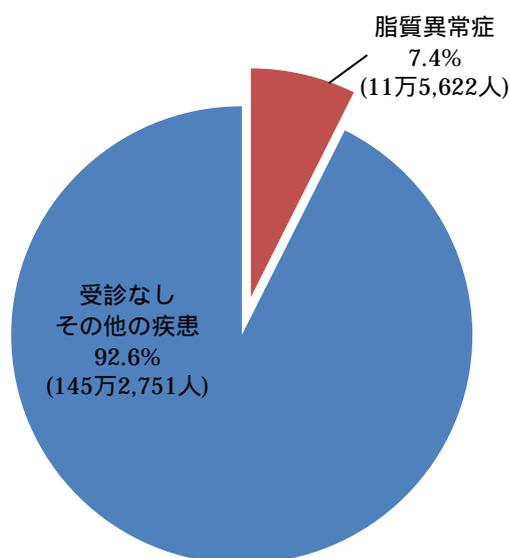


13. 健診受診者に占める「脂質異常症」有病者の割合

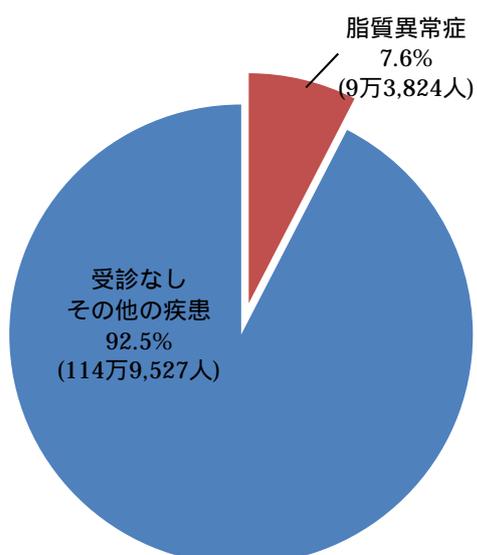
特定健診を受診者した被保険者 156 万 8,373 人のうち、入院外における「脂質異常症」の有病者割合⁸は 7.4%となっている。

男女別にみると、男性：7.6%、女性：6.7%となっており、男女とも概ね同じ割合を示している。

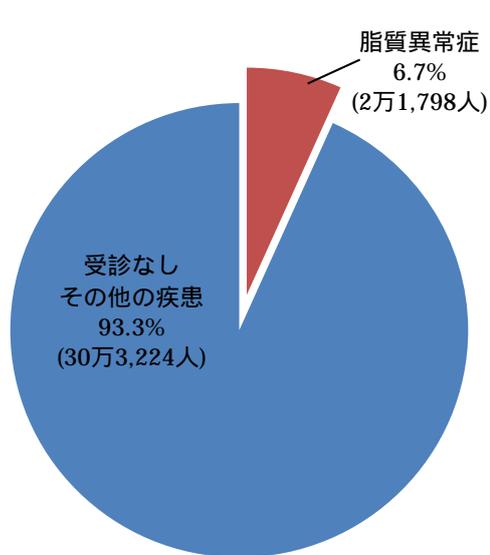
健診受診者に占める「脂質異常症」有病数の割合
【合計】



【男性】

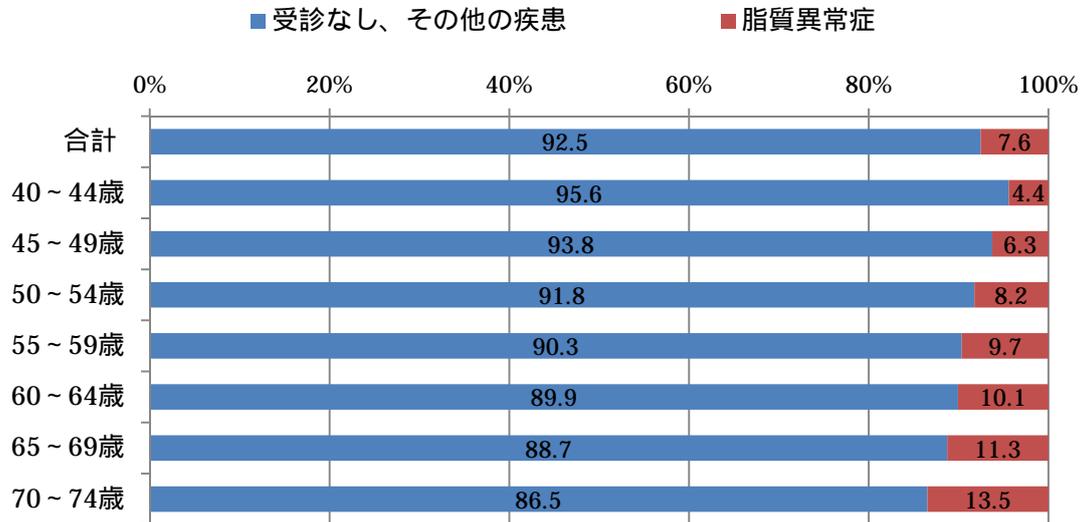


【女性】

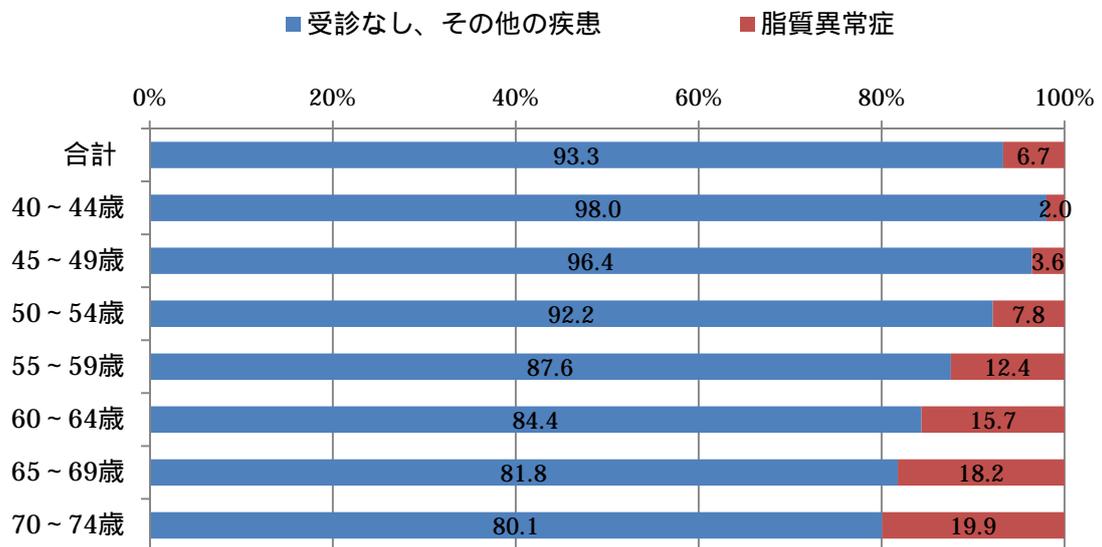


⁸ 当該有病者数（入院外）は、レセプト上に「脂質異常症」が記載されている者の数である。

【男性】



【女性】

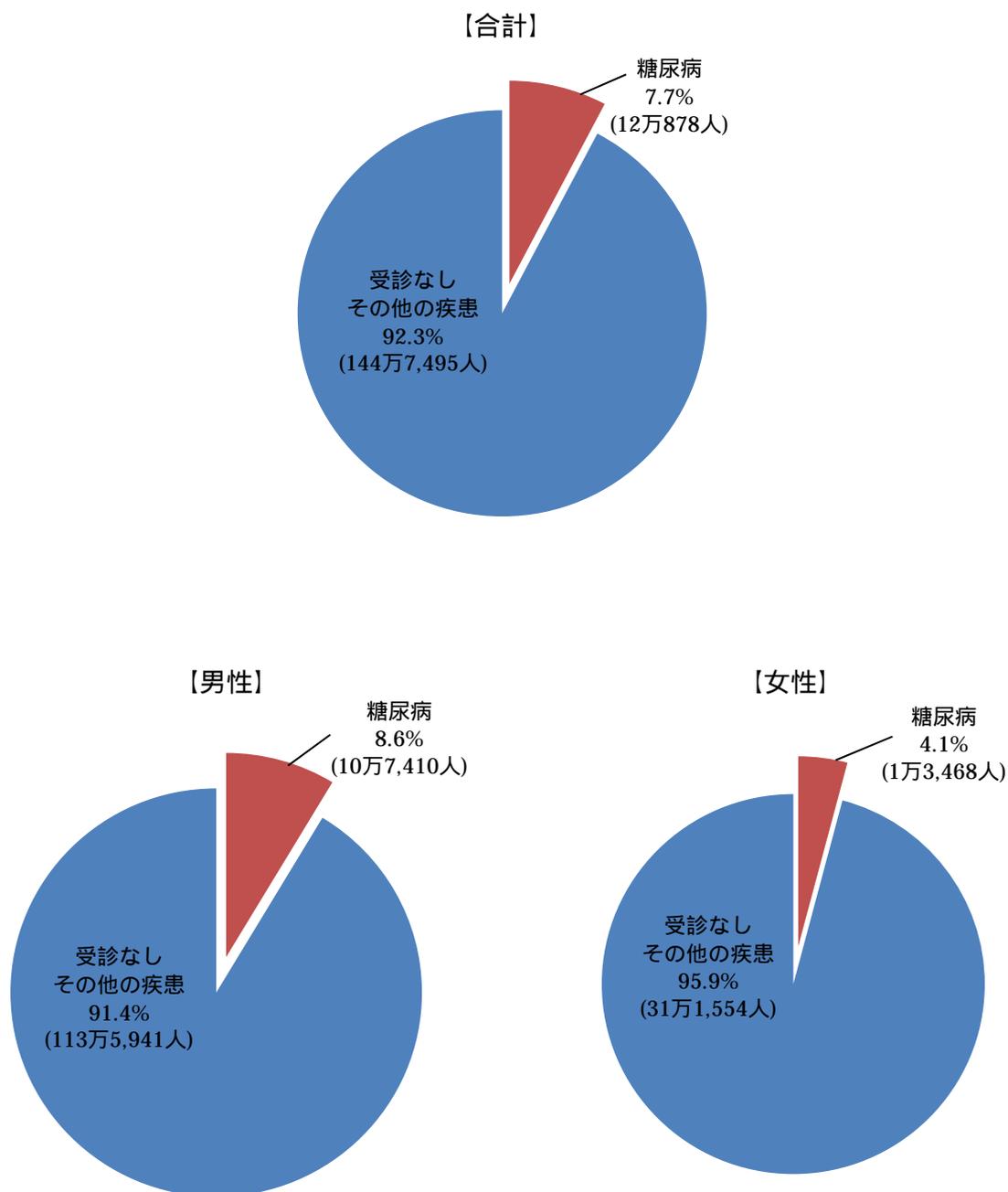


14. 健診受診者に占める「糖尿病」有病数の割合

特定健診を受診者した被保険者 156 万 8,373 人のうち、入院外における「糖尿病」の有病者割合⁹は 7.7%となっている。

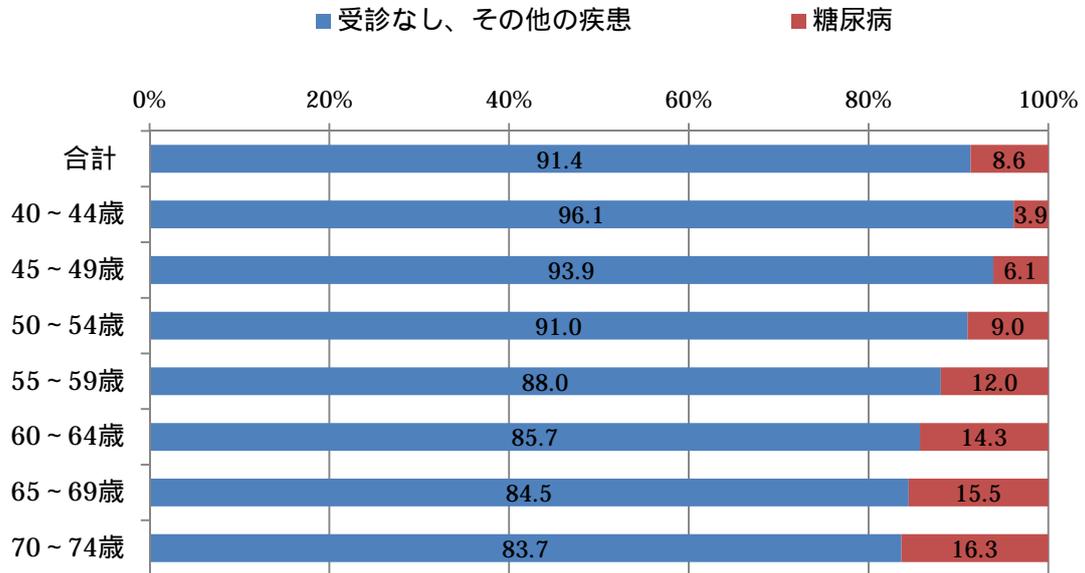
男女別にみると、男性：8.6%、女性：4.1%となっており、男性のほうが高い割合を示している。

健診受診者(156万8,373人)に占める「糖尿病」有病数の割合

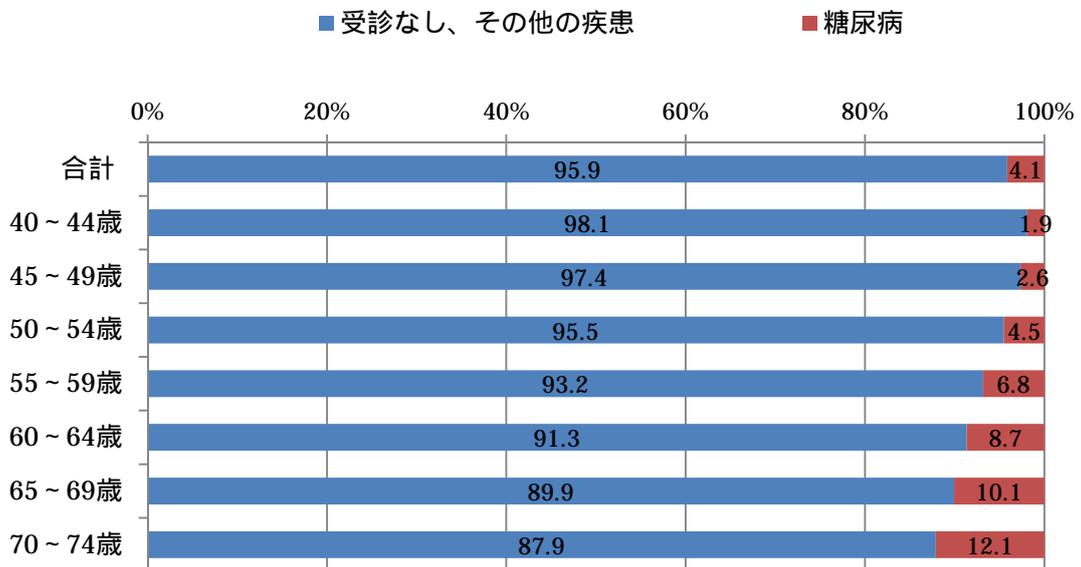


⁹ 当該有病者数（入院外）は、レセプト上に「糖尿病」が記載されている者の数である。

【男性】



【女性】



健診検査値リスク有無別にみた有病者数上位 10 疾患構成割合

円グラフは、健診検査値のリスク有無別に有病者数上位 10 疾患の構成割合をみたものである。

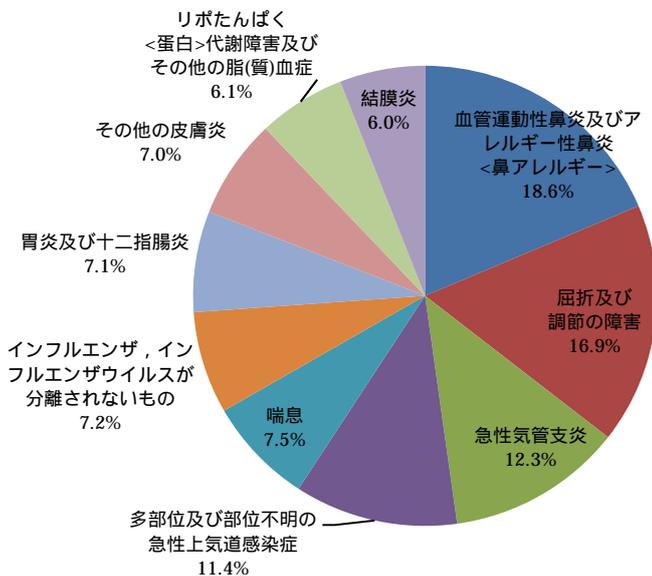
健診検査値の「リスクなし」では、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>、屈折及び調節の障害、急性気管支炎の順に多い。

一方、「肥満」では、本態性(原発性 一次性)高血圧(症)が最も多いほか、リポたんぱく 蛋白 代謝障害及びその他の脂(質)血症、詳細不明の糖尿病の生活習慣病関連疾患が上位を占めている。

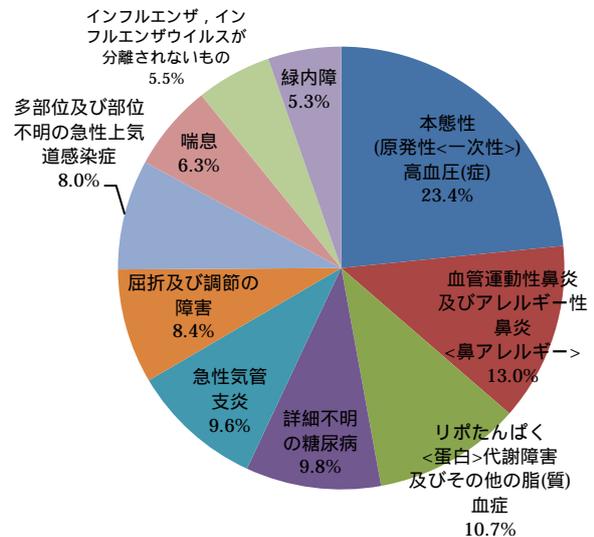
また、「肥満」同様、「血圧」・「脂質」・「血糖」の各リスクでも、本態性(原発性 一次性)高血圧(症)が最も多いほか、リポたんぱく 蛋白 代謝障害及びその他の脂(質)血症、詳細不明の糖尿病が上位を占めており、「血糖」ではインスリン非依存性糖尿病 NIDDM も上位に挙がっている。

上位 10 疾患有病者数構成割合

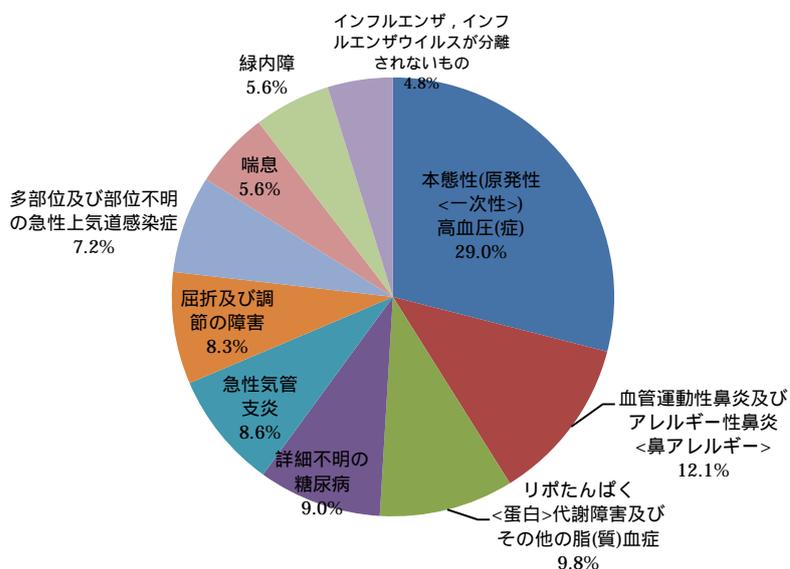
【リスクなし】



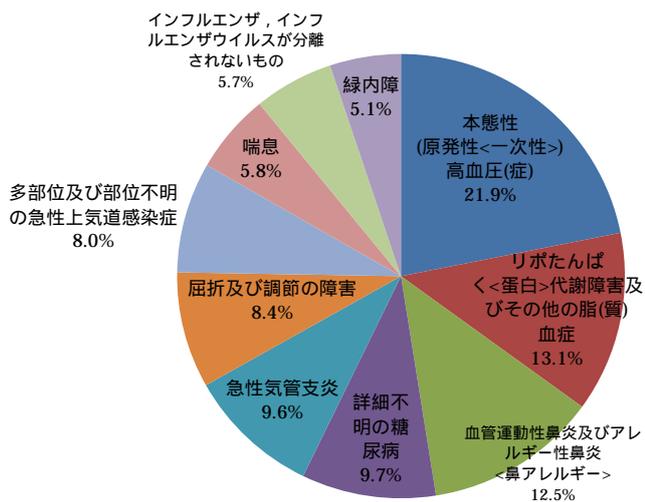
【肥満リスクあり】



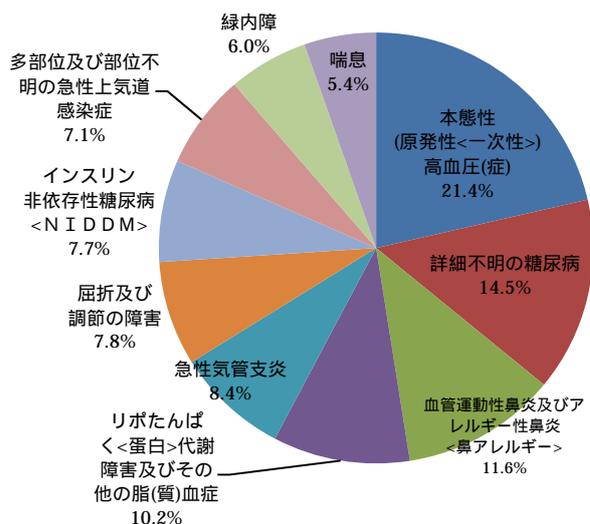
【血圧リスクあり】



【脂質リスクあり】



【血糖リスクあり】



健診検査値リスク別にみた有病者数上位 10 疾患

【リスクなし】

疾患名	有病者数(人)
血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>	65,062
屈折及び調節の障害	59,122
急性気管支炎	42,835
多部位及び部位不明の急性上気道感染症	39,841
喘息	26,218
インフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離 されないもの	25,103
胃炎及び十二指腸炎	24,788
その他の皮膚炎	24,437
リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の 脂(質)血症	21,307
結膜炎	20,838

【肥満リスクあり】

疾患名	有病者数(人)
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	133,281
血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>	74,059
リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の 脂(質)血症	61,100
詳細不明の糖尿病	55,796
急性気管支炎	54,634
屈折及び調節の障害	47,600
多部位及び部位不明の急性上気道感染症	45,709
喘息	35,962
インフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離さ れないもの	31,101
緑内障	30,219

【血圧リスクあり】

疾患名	有病者数(人)
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	138,938
血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>	58,033
リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の 脂(質)血症	47,034
詳細不明の糖尿病	43,285
急性気管支炎	41,040
屈折及び調節の障害	39,511
多部位及び部位不明の急性上気道感染症	34,347
喘息	26,929
緑内障	26,822
インフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離 されないもの	22,889

【脂質リスクあり】

疾患名	有病者数(人)
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	73,211
リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の 脂(質)血症	43,938
血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>	41,807
詳細不明の糖尿病	32,464
急性気管支炎	32,261
屈折及び調節の障害	28,269
多部位及び部位不明の急性上気道感染症	26,927
喘息	19,397
インフルエンザ, インフルエンザウイルスが分離さ れないもの	19,245
緑内障	17,184

【血糖リスクあり】

疾患名	有病者数(人)
本態性(原発性<一次性>)高血圧(症)	101,233
詳細不明の糖尿病	68,831
血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>	54,723
リポたんぱく<蛋白>代謝障害及びその他の 脂(質)血症	48,270
急性気管支炎	39,780
屈折及び調節の障害	37,115
インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>	36,200
多部位及び部位不明の急性上気道感染症	33,495
緑内障	28,185
喘息	25,315